保育項目の實際

―― 夏期講習會講義速記 ――

倉橋惣三

一　幼稚園と保育項目

私の本年の題目は「保育項目の實際」と云ふ事になつて居ります。これは、御承知の通りの色々の保育項目に就きまして出來るだけ實際的な問題をお話して見度いと、斯う計畫して居るのであります。而もその前に保育項目そのものに就きまして全體的な、又多少原論的な事を申上げて置いた方がいゝかと思ふのであります。その第一としまして、保育項目と云ふものは幼稚園生活の中に於ては何う云ふ位置を持つて居るものであらうか、持つ可きものであらうか、と云ふ事を今日は考へて置き度いのであります。

御承知の如く、幼稚園令の中には「教育の目的」が幼稚園令第一條に示してありまして、その仕方に就きましては幼稚園令の中には何も書いてありませぬ。けれども、何も書いてないと云ふ事も幼稚園の特質を現はして居ると云ふ事も出來ますし、即ちさう方法的なものでないと云ふ事を示して居ると云ふ風にも見られますし、又一面に於きましては皆さんのお考に基きまして極く生きた日日の保育が行はれて行くものであると云ふ事を意味して居ると考へられるかと思ふのであります。兎に角、幼稚園令には保育の目的を示しただけで、保育方法は一切書いてありませぬ。幼稚園令施行規則の中に、方法に關する事が二つ出て居るのであります。一つは、施行規則の一番初めに、保育の實際を行つ

て行くに就ては、これ〳〵の事に注意すべし、と云ふ事が擧げてあります。この注意すべしと云ふ事は改めて讀みます迄もないと思ひますが念の爲讀んで見まするこ、

幼稚園に於ては幼稚園令第一條の旨趣を遵守して幼兒を保育すべし。幼兒の保育は其の心身發達の程度に副はしむべくその會得し難き事項を授け、又は過度の業をなさしむる事を得ず。常に幼兒の心情及行儀に注意して之を正しくせしめ又常に善良なる事例を示して之に倣はしむ可き事を務むべし。

と云ふ事を擧げてありまして、之は皆さんの常によく御承知の事でありますが之を更に見ますこ、その半分は、保育方法に關する多少積極的な示し方をして居ります。「幼兒の心情及び行儀に注意して之を正しくさせろ」とか「善良なる事例を示して之に倣はして行け」とか云ふ事は卽ち何所迄も實際の生活を基として、實際の生活を示して保育して行けと云ふ事でありまして、まあ御承知の通り積極的な示し方だと云つてもいゝかも知れませぬ。半分の方は「幼兒の保育は、その心身の發達の程度に副はせて、會得し難き事や過度の業をなさしめない樣にしろ」と云ふ事でありますから、之は消極的に示して居るのだと斯う申しても宜しいかと思ひます。

所でこの施行規則第一條の擧げてあります事は、或人は非常に必要な規則だと考へる人もありますし或人は多少蛇足だと云ふ風に思ふ人もあります。心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養して、と云ふあの第一條の目的は、何うしても斯うなるのが當り前であります。こんな事を今更施行規則として示さなくてもいゝんだ、と斯う云ふ風に思ふ人もある位であります。然しまあ世の中には、尤もな事は言はないと言つたら、何も言はなくなる譯でありまして、尤もな事を言つていけないならば講習も止めてしまつた方が氣が利いて居る位でありますから、この蛇足と見える樣な尤もな事も、世間往々にしてある非常なる誤謬に對しては或必要を持つて居るものと言つていゝかも知れませぬ。然しどうせその位の事

でありまして、或は多少積極的に示し、或は消極的に誡めて居ります位のもので、方法に就てはこの施行規則第一條が、これに一切よつて行けばいゝと云ふ樣な意味合のものを示して居ることは見えないのであります。

次に、幼稚園令施行規則第二條に

幼稚園の保育項目は遊戯、唱歌、觀察、談話、手技等とす。

と云ふ今回私の取り上げて居りますその問題が始めてそこに出て來て居ります。

之は、施行規則第一條が、保育の方法に關する外面的な事を示して居ることしますれば、第三條は、保育の方法に關する內面的な事を示して居ると斯うも云へるかと思ひます。

その三條以下は、さう云つた樣な方法の事は餘り書いて居りませぬので、其所でこの保育項目と云ふものが元來保育方法を規定して居りませぬ幼稚園令及び幼稚園令施行規則の中に於て唯一の方法的な箇條である、と斯う申しても宜しいかと思ふのであります。教育の規則と云ふものは、目的さへ示せばいゝのであつて、方法を一々定めない方がいゝんだと云ふ樣な論法から考へますれば、この保育項目の擧げて居る事だけが保育の方法を規則で多少縛つて居る樣な感じも與へるのであります。けれども第二條卽ち保育項目の列擧がしてありませぬければ、幼稚園の中では實に何等の規定と云ふものが與へられないで行はれて行く樣な形になるのでありますが、この保育項目が擧げてあります所に何となく、幼稚園では斯う云ふ風な事をするんだとか、或はしなければならぬとか云つた樣な規定的な性質を帶びて來るのであります。そこでその規定的な性質をこの第二條が持つて居りますので、或人は大變に之に規定されます。殊におやさしき… 言ひ換へれば氣の小さい人は之に大變規定される。規則の方では規定する積りで言つて居るか何うか別問題でありますが、規則面から言ひまして大變規定されてある。保育項目を每日その通りに缺かす事なくやつて行かなければこの規則に反する樣にお考

へになる方も出ましたり、或はこれ以外の事は實際、してはならぬものだと云ふ風にお考へになる方が出ましたり、それ等を綜合して、之さへやつて居れば保育だと云ふ風にお考へになる方が出ましたり、多くは、さう云ふ樣にこの保育項目を氣になすつてお出でになる方が少くないのであります。中にはこの氣の小さいの反對で、氣の大きいと言ひますか……幼稚園をやつて居乍ら幼稚園令を一度も讀んだ事がないと云ふ樣な大膽な方もおありになります。況んや施行規則の如きは吾關せず焉、と云ふ樣な、天馬空を行くと云つた樣な勇敢な方等は斯う云ふ問題を殆ど考慮なさいませぬで、保育項目などと云ふものがあつたか、と云つた樣な殆ど構はない方もあります。或はその中間で、この保育項目を御覽になりまして、こゝに何だか擧げてある樣だと云ふ風な所で、御覽になりますが、元來が非常な大膽な朗らかな方でありますから、これを擧げてはあるが自分の勝手にこの中のどれでもお取りになりまして、私は唱歌が好きだからそれだけでやるとか、私は談話が好きだからそれだけでやるとか云ふ樣な、丁度——私の講義には何時も食物の話が出まして意地きたないのでありますが——料理屋に行きますと、そこに色々「本日の獻立は何々々々です」と書いてある。その中で好きなのを選んでよい樣な、自由な扱ひをする方もあるのであります。

そこで兎に角、この施行規則第二條の保育項目と云ふ事は、相當はつきり突きつめて考へて置く必要があると申して宜しいかと思ひます。所でこの保育項目に就きましては、之を考へますに就て、たゞ項目じやないので、保育項目でありますから、その保育と云ふ事を何う考へるかに依て、この保育項目に對する考へ方が大層變つて參るのであります。若し之を逆さまにしまして、保育項目じやない。項目保育だ、ここの位自由に取つてしまつたとすれば、この項目と云ふものは大變違つた意味合を持つて參ります。その保育と云ふのを何う考へるかと云ふ事が多分、先決問題であると思ふのであります。

前に、この遊戯、唱歌、觀察、談話、手技等と云ふものに大變捉はれて行く方は氣の小さい方だと言つて見ましたが、こゝによりましたらば、氣が小さいのではなくして、保育と云ふ事を忘れて居り、見捨てゝ居り、離れて居る人だとも言へるかも知れませぬ。遊戯、唱歌、觀察、談話、手技と云ふ、その一つ一つの價値に大變こだはりまして、折角此處に擧げて居る保育項目と云ふその保育と云ふ字を見落して居る人だと申してもいゝかも知れないのである。此間も或處で私、申したのでありますが、幼稚園に居て、此處が幼稚園だと云ふ事を忘れて、一つ一つの保育項目だけを考へて居る人がさう云ふ人であります。我々、山に行きまして、其處に色々な形の木が生えて居ります。その一本々々の木を、二つの見方が出來るかと思ふ。一つの見方は、それが何處であるかと云ふ事を一切離れて、たゞその山の中のその目の前にありますこの木、あの木、彼處の木、と云ふもの丈を注意する行き方であります。もう一つは、一本の木と雖も、その山の中に於てその木を眺める。之は二つの見方かと思ふ。私は仙臺の松島に見物に行きます時に、或人はその色々の松の一つ々々を拔き出して來て、この松は何う、この松は斯う、と色々私に說明する。私は、その松を離れて松島へ行つて見ようとはしないのでありまして、何所迄も、あの松島灣と、あの澤山の島の配置されて居る處と、その全景の中に於てのその技振りを見度いと思ふ。之を他に持つて來たら別問題であります。此處で見ればこそいゝのであります。昨日、私は或立派な建築を見ました。良いお座敷であります。そのお座敷を見ます時に、私は何所迄もその全體の建築の美を基にして見て行き度いと思ふ。その全體の建築の中に、この柱が成程此處に置いてあるか、この置物が成程此處に置いてあるかと斯う云ふ風にして始めてその一つ々々が本當に味はへると思ふ。所がこゝによりますと云ふと、その全體の建築と云ふ事を一切離れて了つて、頻りに其處の柱を撫で廻つて居る人があります。この柱は何で出來て居る、等と言つて叩いて居る人がありますが、私は、その柱一本を見るのは、その建築の中に於ける柱を見る事とは違ふと思ふ。全體の中に於てそれを見て行く

事と、全體を離れてそれ丈見て行く事とは大變な違ひを生じて來るのであります。遊戯、唱歌、觀察、談話、手技と云ふものを一つ拔き出して來てそれを見るか、幼稚園保育と云ふ全體の中に於てのそれを見て行くかと云ふ事は、之は大事な問題だと思ふのであります。言ふ迄もなく私は、保育項目は、保育と云ふ中に於ての之であると見度いのであります。又、見なければならぬと確信して居ります。もう一つ之を逆に申します。松島の景色は、あの一つ々々の松が集つて、あの景色を造つて居るのである譯でありませう。或は大きな一つの建築は、その柱、長押、鴨居、天井、襖、さう云ふものを集めてあの建築が出來て居るのでありませう。この論法を――大いに違ひますけれども――一寸借りて來て、保育項目から幼稚園が成立つと假に言つて見ます。松から松島が出來る。部分から建築が出來る、と云ふ言ひ方にぴつたり合ひませぬけれども、中にはそんな事を考へて居る人がないではないのでありますから、保育項目から幼稚園が出來て來ると斯うまあ、考へることします。これはその考へ方の良い惡いは別にしまして、部分から全體が出來て來ると云ふ考へ方が正しいか正しくないかと云ふ樣な議論は暫く別としまして、兎に角其處に出來て居るものを目の前に置きました場合には、頭の中で部分から全體が出來て來る道筋を辿つて見たり、建築の進んで行く模樣を見て居つたりする時とは別で、既に出來て居る全體を、そのものゝ前に置いて見ると云ふ意味は、これは何所迄も部分から成立つて居る全體ではなくて、全體の中に於ける部分であります。これは、はつきり見なくちやならぬかと思ふ。よく、子供を松島なんかに連れて行きますと「誰がこれ一本づゝ植えたの」と云ふ樣な事を言ひます。隨分難しい問題であります。「一本づゝ植えて集まつた。隨分澤山植えたもんだね」と言へば如何にも部分から長年かゝつて全體の體形が出來たと云ふ事になりますが、さうかも知れませぬけれども、今の松島は兎に角あの全體が目の前にあるのであります。

保育項目を、私はそんな風な意味合から何所迄も、幼稚園の保育と云ふ全體の中に於けるものとはつきり見て行かなけ

りやならぬ。これはもう當り前の事だと皆さん仰言る樣な顏をしていらつしやいますが、却々さうでないのであります。却々さうでない例を一つ、極く短かな手近なところで擧げて見ると致しますれば、これから後に及川講師の手技の講習があります。その手技の講習をお受けになる時に(彼處に及川先生がいらつしやつて、何を言ひ出すかと思つていらつしやる樣ですが)その手技の講習は、幼稚園項目としての手技だと云ふ事を何處迄も思つて居て下さる方と、幼稚園なんと云ふものは故鄕遠く捨てゝ來て、此處では何處迄も紙細工、と云ふ考へ方で行く方と二種あると思ふ。勿論、此處でお習ひになりました手技、之を故鄕へ持つて歸つて幼稚園の中へお入れになるところに於ては皆さん誤りはないと思ふ。幼稚園講習の中に於ける手技は、保育項目としての手技を題目にして居るのでありまして、たゞ紙細工傳習所ではありませぬ。紙細工稽古所ではありませぬ。及川講師は、紙細工のお師匠樣ではありませぬ。これをお習ひになりまして緣日へ出ようと云ふ事になると、一寸當てはまらないかも知れない。さう云ふ事でしたら、ここによりましたら及川講師よりも、もつと器用で上手な、紙細工專門の御隱居が何處かにお出でになるかも知れないのであります。お晝から幼稚園協會の講習で遊戲がありません。戸倉講師が遊戲をなさいますけれども、遊戲だつて、遊戲そのものとして講習の題目にされて居るのでないのであります。幼稚園と云ふ全體の保育の中に於ける遊戲、と云ふ事を何處迄も離れない樣にと云ふ事によく氣をつけて……。

遊戲傳習所、遊戲稽古所と、まあ色々さう云ふのがありませう。これは結構です。それはそれで結構です。私なんかもこれで却々、踊りの一つも——習ひに行くか行かぬか知りませぬけれども——習ひに行つても面白いと思ふ。私が行きますと「何うも旦那は大變に器用でいらつしやる。一三年おやりになれば名取になれる」といふ話で、踊りの稽古をするのも面白いと思ふ。その踊りと、保育項目としての遊戲と云ふものとは違ふのであります。勿論、其處で習つたものを幼稚園

へ持つて來て「私は彼處の何處の稽古場でトンと踊つたが、幼稚園だからもう少し粗末にするよ。いゝ具合に途中で三分の一忘れて來たから丁度幼稚園らしくなつた」と云ふだけの問題じやない。本當の踊りはちやんとしたので、幼稚園ではやさしく、と云ふ樣に考へて居ると之は非常な間違であります。

お話の上手な人の處に習ひに來まして「お話とは斯うするのである。エヘン」と言つて斯う云ふ風に手をついてするのである」と言つて雄辯の術を心得て幼稚園に來て「幼稚園ではこの位にするかな」と云ふ考へ方。之も私は、多くの方が多分してお出でになると思ふ。

松島の松を一本拔いて私の庭に寄贈して呉れる人がありましたら私は多分お斷りはしないでせう。然し之は矢張り彼處で見度いな、と思ひます。私の庭へ移したならば、彼處で見たあの感じはなくなつて了ふ。寧ろ、惜しいなと思ふかも知れませぬ。

保育項目の位置

保育項目は、さう云つた意味で何處迄も保育と云ふ中におけるものなのです。其所で、保育と云ふ事を何う考へるかに依て保育項目と云ふ事の意味合が色々變つて參ります。保育と云ふ事を一切、深くも考へずして、保育項目を其日々々暮しにやつて行くと云ふ事でありましたならば、其處は幼稚園じやなくなると思ふのであります。保育と云ふ事を何處迄も深く考へて置いて、その中に於ける保育項目の位置を正しく見付けて來るのでなければならぬ、斯う思ふのであります。

その保育と云ふ事を何う考へるかに就て、私は多數の皆さん方には、色々の處で色々な時、色々な方角から、こんな事をお話合をした事が多いのであらうと思ひますが、大體ずつと突きつめたところを昨年の夏此處で、幼稚園協會の講習でお話をして見た。それを私が自ら名付けて「保育法の眞諦」等と看板だけ立派に掲げてお恥しいのでありますが、その突き

つめたこころを、何うしても子供の生活そのものを基にして……基にする所じやないもこに迄は多くの人がなさるんですけれども、……もこにして居るが今は變へて了つた、こ云ふのがあるのでありますが……何時もその生活を、生活的特質に於て發揮させて置いてやつて行くのが保育の眞諦だこ、斯うまあ私は突きつめて見たのであります。何か、子供の生活そのもの以外に保育こ云ふものがあつて、其處へ子供を入れて來るのじやなくて、子供の生活そのものゝ中へ保育こ云ふものを見付け出して行くんだこ、斯う私は突きつめて見たのであります。これを長く申して居りますこ、昨年のお話を又此處に繰返す事になりますが、生活を基にして生活の中に保育を見出して來て、その生活を正しく手傳ふ事によつて、野放しの生活から保育せられて居る生活に變つて來るんだこ斯う突きつめて見たのであります。子供が幼稚園に來ます。門を這入つたら最後生活を離れて、保育こ云ふものゝ俘虜になつて了ふ、こ斯う云ふ考へ方を絶對に捨てゝ見たのであります。

そこで、その生活こ云ふものを基にする許りじやない。始終それをたゞそのまゝにさして置いてその中で正しく生活を手傳ふ事に依て保育になるこ云ふ考へ方で保育こ云ふものを考へて來ました時に、この保育項目の位置こ云ふものが、或は一段こ又よく考へなきやならぬものになるかも知れませぬ。子供の生活を無視して此方の目的を楯に取つて、目的を達する手段こして保育項目を作つて、それを徹底さして行くのが保育だこ考へるならば、保育項目こ云ふものゝ位置は、比較的簡單に片付いて了ひます。目的の手段こして保育項目が出來て、その保育項目を子供に徹底させる、之が保育だこ云ふ事にすれば、保育項目こ云ふものは極めて簡單な事になります。但し其時に、目的から保育項目が出て、その保育項目を子供に適用して行きます場合に、生活を無視して無理に押しつけて行くやり方はまさかに誰もしますまいから、そこで生活的にこか、生活を利用してこか、生活めかしくこか、生活らしく見せかけてこか、生活でつゝてこか、生活で誤魔化

してさかさ云ふ樣な所迄は考へるのであります。私はそれをもう一つぶち壞して了つて、目的から保育項目が出來てそれの持つて行き方を生活的にするさ云ふやり方じやなくて、初めから生活の方を徹頭徹尾本體さして、その中から保育を發生させ、發生させる爲にば此方も手傳はなければならぬ、さ斯う考へて居る。

之が昨年の私の話でありまして、そこ迄、保育さ云ふ事を考へる時に、その中に於ける保育項目の位置さ云ふものは何であつた、さ云ふ事をこゝへ突きつめ度いのであります。

今迄のお話は色々な問題をボツ〳〵さ申上げましたが此處から今回のお話の本論に這入つて行くのであります。卽ち保育さ云ふものを本體にして其の保育は何處迄も子供の生活そのものである、さ云ふ事にして、その中に於ける保育項目さ云ふ事は何う云ふ位置を占むべきものであるか、斯う考へるのであります。若し此約束を捨てゝ了つて保育項目の一つ一つはそれ〴〵何ぞや、或は遊戲を掌に載せて見、手技を摘んで引繰り返して見たり、して考へるだけの事はそんなに難しい事ではありませぬ。難ついかやさしいか、今更議論しないでもいゝのであります。或はそんな事は遊戲學者、手技學者お話學者の處へ行つて聞けばいゝので、お互がお互の立場に於て特有な苦心をして研究する必要はないのであります。さう云ふ事を私のお話して行く基さして、皆さんさ私さ氣持を一つにしておき度いので、何だか氣になるからもう一つ申上げます。保育項目論ではないのであります。保育項目の各論の一つ〳〵の事に今這入つて居るんじやありませぬ。保育さ云ふものを本當に眺めて見て其中へ何うなつて扃るのだらうか。又一寸變な例を引いて頂きます。松島へ行つて畫を描く人が、松島の畫を描くのに松を一本一本描いて持つて來たつて畫にはなりませぬ。叮嚀な人が松島のお土產に松島の松を一本一本寫眞に撮つて來た。これを今竝べて松島になるんだ、御覽なさい、さ云つたつて私は成程これは寫眞さしてはよく撮れて居りますがこれは何う竝べたつて松島にはならないさ私は斯う云ひ度い。或人は斯うボウーさしたものを斯う靑

いクレヨンか何かでボウーとしたものを描いて來て、これが松島だと斯う云つた時に私はこの方が松島らしい、餘つ程松島らしい。この中に私には松が見えて來る。この名畫の中に一本〳〵の松が見え、あの枝振りが見え、彼處に島があり、岩にぶつかる浪が見えて來る。松が正確に描いてあつたつて松島は造り出す事は出來ないが、このボウーとした松島が何處にあるかないか解らない、けれどもちやんと松島になる。細かな人だつたら或は何處に松があるのか、何本松が這入つて居るのかなんと言ひます。私には松が出て來るけれども、これはまあ藝術ですから印象的にやつて、描く人見る人の心の機械で解りますけれども、その通りに保育の話をもつて來る譯には行きますまいが、保育と云ふものを一つとつて眺めて、その中で談話が何う這入つて居るだらうか、手技が何う這入つて居るだらうか殊によつたら餘り名人、餘り名人と云ふと可笑しいですが、非常に名人と云ふよりは餘り名人と云ふ方が感じが出る。非常に名人では私の感じが駄目ですから……

餘り名人が保育をやつて居りますと、其中で手技は何時するんだらう、何時お話が始まるんだらうと松を一本一本勘定して行く樣な人から見れば、餘り旨い保育には見付からぬかも知れませぬ。此位私は保育を本體として保育項目を眺めて行く但し此の畫が松島の畫として駄目なのか、松島の感じを描いたと云つて私が書いたこれには松は出て居ませぬ。本當に旨い人が松島を一刷毛で描くと何う云ふ譯でせうか、松を描かないで松が描けて居るのです。保育項目なんと云ふものは保育の中に這入ちまふもので、近江八景、今日は霧がかゝつて凡てが霧の中に隱れて殘る七景霧の中に三井の鐘とかボウーとして居る、何處に保育があるかないか解らぬ所にこの幼稚園の本質が現はれて居ると云つて、霧の中に惑はされる樣な、これは亂暴であります。實際やつて確かにある。あるんですけれども保育と云ふものが餘り大きな存在である爲に保育項目が一つ〳〵目立たないので、松島の體形が餘り大きな全體形になる爲に歸つて來る

と、松の爲に松島があるんですけれども松島だけが心に殘つて松を忘れて來た。忘れて來るんなら松島は禿山でも宜からう、と云ふ事になるとこれは別問題であります。其の意味で保育と云ふものを解釋してその中の保育項目をどんな位置にあるかと斯う見たいのであります。

餘り序論的な事だけで終るのも殘念でありますから一言最後に申してこの時間を終ります。この保育をずつと御覽になりますと、曰く遊戯曰く唱歌曰く觀察曰く談話曰く手技と云ひ、もう言葉自身が、曰く算術曰く理科曰く讀方曰く歴史と云ひませうか、これとは大變に違つた持前をもつて居ります。何處に違つた持前をもつて居るかと云ふと、これはこれ自身が生活であります。算術の生活などと云ふものは何處にもありませぬ。歴史の生活などと云ふものはありませぬ。理科の生活と云ふものもありませぬ。さう云ふ學問があり、さう云ふ學科があるかも知れませぬが、さう云ふ生活は何處にもありませぬ。所が此處に擧げてあります遊戯なり唱歌なり觀察なり談話なり手技なりと云ふものはこれはそれ自體が生活であります。生活が抽象された部分的な活動と云ふよりもそれ自身が生活性を多分にもつて居るものである。其處にこの保育項目がその生活を本體と主體全體として居ります、保育と云ふものその中に適當な位置が持てるのであります。こん中に若しも算術と云ふものが一つ這入つて居たならばその算術と云ふものを生活と云ふ保育の中へ何處に位置をおきませうか。野原に草が一ぱな生えて居ります。木が林の如くなつて居ります。自然です。自然の景色その自然の景色の中には自然なら何處へでも適當な位置を持つてるのであります。其處へ自然でない全く人工的なものを一つ置いたとしたら實に其處に位置を見出す事が難しいのであります。其處で斯う云ふ事に一つ御注意を願ひ度い保育項目はこれ〳〵〳〵等とす、と云ふ言葉の中に就て私は斯う解釋したい。幼稚園の保育項目は矢つ張、何をするにしても生活であるぞよ、と斯う云ふ御託宣じやないかと思ふ。生活であるぞよ、生活的なものであるべきぞよ、と斯う施行規則が示して居るんじやな

いかと思ふ。この中に算術が這入りませぬ。何にも這入りませぬ。算術、斯う云ふ小學校の學課が學問から出來て居ります學課が一つ這入つたら學問でありますが、何處迄もそれが入れてない所が、生活的なものをもつて保育せよ、と云ふ事じやないかと考へるのであります。即ち今の私の話をもつと突きつめれば、遊戯唱歌談話觀察手技と云ふその一つ〳〵に注意を拂ふ前に見渡したら、成程生活的なものだなと云ふ所に先づ目を置きたいのであります。後に等々と云ふ字がありますので、何でも這入つていゝと考へられますが何でも斯う云ふ樣に後に等々と云ふのは同じ性質のもので外のもの、と云ふ事はこれは常識的に當然な事であると思ふ。これ〳〵〳〵〳〵と云つて等と云つて暗示して考へられますのは、この上に擧げて來ました五つが生活的だと云ふ事、その特色をしつかり持つて居りますのでその生活的なるもの、其他であります。斯う云ふ事になつて來るのだ、と斯う考へたいのであります、これが幼稚園保育項目の私の解釋であります。この一つ〳〵の問題に這入る前にこれは矢ッ張生活的なものだ。保育の項目は生活的なものでなければならないんじやないかと云ふ所にぴつたり來るのであります。

もう一つ序でに申しますが、序でに申す事が大事なのでありますが、保育項目と云ひますと、殊によりますと多くの方が子供にさせる事、とお考へになつて居る誤りがありはしないか、學科は子供にさせる事であります。小學校の學科は教授の內容を示して居る。學科の教授は子供に授ける事でありますから子供にさせる。算術は算術を子供にさせるのであります。歷史を子供に勉强させるのであります。所が此處に何うでせう。幼稚園の保育項目はこれ〳〵〳〵〳〵等とすとありますが子供にさせる保育項目とは決して書いちやありませぬのです。子供の爲に子供に授けるものとして保育項目を此處に指定してある文句は何處からも見付からないのであります。幼稚園生活と云ふ事で子供に觸れて行かうとするには斯う云ふ生活的なもので先生が子供に觸れて行くと云ふのが、小學校の學科とは違つた特有な點が出て來るのだと思ふので

あります。保育項目を生徒に教へる眼目と考へたら、生徒に教へる所と考へたら、非常な間違ひであります。先生が子供に生活の中で觸れて行くには是等の保育項目の中で觸れて行くのであります。先生がさう云ふ事で觸れて行くには保育の生活性を壞さないであらう、と云ふ事が暗示されて居るのであります。若くも保育項目を捨てゝ了つて先生が子供を集めて私は話をするのは嫌ひだよ、遊ぶのは暑くて嫌だ、物を拵へるのは面倒だ、私はあなた方の前で思索するよ、なんて考へ出したらこれは生活でなくなつて了ふ。思索を理論的に說明したらこれは生活でなくなる。斯う云ふ風に表現すると、抽象的に與へれば生活でなくなる。生活を中心に先生と子供と近付いて行くと云ふ樣な事があると、斯う考へるのであります。保育項目と云ふものは私はさう云ふ風に解釋して居る。生活の中に於ける生活的なものを此處に擧げて行くのである。その生活は子供にさせるばかりでなく先生もこの手の生活に觸れて行く。生活を抽象にならない、生活を無視しない、生活をさせなければならない保育、換言すれば、幼稚園生活と云ふものが其處に實現して來るのであります。幼稚園保育があつて、保育項目を何う繫がうか、何う當嵌めて行かうか、と云ふのではなくて、この生活的なものが生活的に存在して居りますから、其處で幼稚園生活が壞れて來ないのであると斯う見度いのであります。これを基の論にしまして段々問題を發展させて參りませう。（第一日終）

二　保育項目取扱の要領

（一）　保育項目といふもの

昨日は、「保育項目」と云ふ事を考へるに就きまして、往々にしてその一つ〳〵が主になり過ぎて、保育と云ふ全體の中

に於てその位置を充分正しく見るこ云ふ事が缺け易いこ云ふ事を考へまして、何處迄も保育こ云ふ全體の中に於ける遊戯であり、手技であり、觀察であり、斯う云ふ風に考へて行き度い、こ云ふ事を申したのであります。

これは昨日だけのお話では、それはきまつた事だこお取りになるかも知れませぬが、實はあゝ考へる事によりまして保育項目こ云ふ事が實に難しくなつて來るのであります。若しも昨日の樣に考へませぬで、あの保育項目の一つ〳〵をそれ自身こして見つめて、それをたゞ子供へ持つて行くこ云ふ事でありましたならば、さう難しくないこ思ふ。繪の上手い人が繪を如何に上手く子供に書かせるかこ云ふ事を少し研究すれば圖畫こ云ふ保育項目は處置が出來るのであります。或は踊りの上手い人が――其處が幼稚園であらうが舞臺であらうがそんな事に構はず踊る。そのものこして教へる丈の技量を持つて居ればそれでいゝこ云ふ事ならば何でもないのであります。勿論何でもないこ言ひましてもその踊りを子供に教へる事は相當難しい事でありませうけれども、然し要するにそれ丈の事である。よく幼兒に踊りを教へる事を專門こして居られる方が、「どうも小さい子供に踊りを教へる事は却々難しい」こ斯う云はれまして、幼稚園の先生は、それこ同じ程度の難しさしか持つて居ないこ云ふ事を話合つて居る事を聞く事があります。例へば、踊りの稽古場を開いて居りまして其處へ子供が踊りを習ひに來る。その小さい……踊りを習ひに來ました子供を捉へて、それに適當な幼兒に教へるに適應しい踊りを教へるのは、難しいけれどもそれ丈の話である。幼稚園の場合はそれこ全く違ふ。幼稚園の場合は、踊りを習ひに來る子供に踊りを教へるのではなく、保育こ云ふ全體的な生活をしに來て居る……こ云ひますか、して居る子供、それへ遊戯を何う持つて行くかこ云ふ所に、幼稚園獨特の難しさがある。よく幼稚園に、踊りを子供に教へて居る先生を連れて來て、そのまゝ子供に遊戯を教へて、それで幼稚園に於ける遊戯が完成して居るこ考へる人がありますが、あれは、さう云ふ事を手傳ひ的、補助的にしても構ひませぬが、幼稚園に於ける保育項目こしての遊戯こして面目は少しも發揮され

て居ないと云ふ事になりませう。

此前、昨年も色々と例を擧げて申しましたが所謂保育項目と云ふものは決して、一品一品の御馳走じやないのであります。幼稚園に於ては、遊戯、唱歌、談話、觀察、手技等を食はせる處とす、と斯う云ふのじやないのです。さう云ふものをたゞ子供に一品料理的に食はせるのでなく、幼稚園としての全體の食卓と言ひますか……食物に對して食事と云ふ言葉を去年も申しましたが、食事と云ふ全體的なものがある。その全體的な食事の中に一つ一つが何う這入つて行くかと云ふ其所が大事なのであります。でありまのから昨日の樣に考へますと何でもない樣で居て、實は其所に難しい問題が起ると御承知願ひ度いのであります。失禮でありますが、今日の幼稚園の方々の中には、こゝによりますと云ふとその保育項目の一つ〳〵の勉强と、それを何うしたら一人の子供に持つて行く事が出來るかと、ここだけで苦勞して止つて居る人が少くないと思ふのであります。講習なんかでは、幼稚園と云ふものを講習する事は出來ませぬから、一つ〳〵を拔き出して講習しますけれども、幼稚園と云ふ生きた生活の中に於てはもう少し其處獨特の苦心がなけりやならぬのであります。そこでまあ兎に角私も、昨日の樣な事を申しましたけれども、實に難しい事です。保育項目の一つ〳〵を研究して、一つ一つの子供に持つて行き方をやる、之は難しいたつて大した事もないかと思ひますが、生活の中にあの保育項目が何う這入つて、そのまゝ取扱はれて行くかと云ふ事になりますと云ふと相當難しいのであります。そこで私も正直に——まあ正直も嘘もありませぬが——申しますがよく分りませぬ。一體何うしたのが、一番保育項目としての位置を正しく致して行く所以であるか、自分でどうもうまく分らぬのであります。私にやれるかやれないかと仰言れば、やれない事はない。私にやれないと言つたつて驚きも何もなさいますまいが、やれるやれないではなく、ちやんと正しく考へないで突きつめる事も實は充分出來て居ないのであります。まあ、私の凡そ考へて居ります所では、例へばこの製作なんと云ふものは……手

技と云ふ樣な事は、比較的、幼稚園生活の中に於て、何處に手技があるか分らぬ樣な形で、織り込まれて行く事が比較的易しい問題かと思ひます。或は又觀察なんと云ふ事も、觀察を觀察として云ふ樣な、取出し方を少しも際立てないで、生活の中で何時の間にかそれが出來、而も充分に行はれて行くと云ふ事がさう難しくもない事の樣に考へられます。これは又後でそこらの事を申上げますが、所が、例へば遊戯とかと云ふ事になつて來ますと、あの所謂自由遊びの方の事は別にしまして、或一つの形を定めました遊戯と云ふ事になりますと、之を生活の中へ何う云ふ風に入れて行つたらば正しい位置を持てるかと云ふ事は、實は目下研究中であります。目下研究中の者が講習會の講師になるのは不都合で、文部省から辭職を命ぜられさうでありますが。何うも、さう申すより仕方がないのであります。其所で、之は一つ皆樣に、斯う云ふ事を申上げ度い。

保育項目のあの一つ々々を說く事は難しくありませぬ。それを四歲の子供に如何にして敎ふ可きかと云ふ事を考へるのは一寸も難しくない。これなら私は實に見事な講義をする事が出來ると威張つて置きます。然し、昨日申した樣な意味を行ふ正しい位置を與へて行かうとすると、御一緒にこれから考へませぬと何も運ばないのである。そこで今回のこの講習は、御一緒にその問題を考へて苦心して行きますその苦心開業式と云つた樣なものとしてお聞き取り頂ければ、私は樂になつて來るのであります。

そこでまあ、たゞ苦心すると言ひましても、困る〳〵と言ひましても仕方がありませぬので、その保育項目と云ふものを、その幼稚園生活の生活そのまゝの中で取扱つて行く全體の要領を大まかに、私がちよつ〳〵と氣が付いて居る樣な所から申上げて、皆さまの御研究の極く基の、基礎でもありませぬが謂はゞ建築地の一番下の塵埃の樣なものを此處で申上げて見度い、と斯う思ふのであります。

(二) 保育項目としての談話

それに就て、例へば遊戯の事は後にしまして、保育項目の中に談話と云ふ事がある。この保育項目に於ける談話と云ふのは、談話そのものとして見ますれば、所謂二つのものを含んで居ると云ふ事は豫ねて明かな事であります。一つは日常の談話、即ち子供と子供とが話をしましたり、子供と先生が話をしましたり、さう云ふ日常の談話であります。もう一つは、或一定の話として出來て居りますものを、子供に聞かせて行く、或は藝術的談話であります。藝術的、と云ふのは內容は必ずしも藝術談話に限らないで、科學談話もあり色々ありませうが、日常の談話に比べますと、お話と云ふものを面白く取扱つて行くと云ふ上に於て、藝術的な文字の樣なものになつて來るのであります。

この二つが談話の中に含まれて居るもので、それ〴〵研究して色々な問題が起つて居ります。殊に此方の方の談話、即ちストーリー、或童話を子供に話すと云ふ事になりますと、童話の理論としても童話の話方としても、實に色々な研究が出來て居ります事は御承知の通りであります。その研究はこゝの私共の問題ではない。私共の問題じやないと云ふのは、幼稚園の教育者はさう云ふ事を研究しなくてもいゝと云ふのでは決してない。そんな事は百も承知の上で、さう云ふのは童話の研究者、童話の技術のうまい人と同じ研究をして置いた上に、もう一つ幼稚園に於けるその位置を何うするかと云ふところに、あの、世間の童話の大家なんかの思ひもよらない、あの人達の知りもしない、考へもしない苦心がある。其所からが今日のこの講習の問題になつて來るのであります。

そこで、この童話と云ふものを、生活の中で發生さして來ようとするには何うしたらいゝだらうか。子供は子供で遊んで居る。童話は童話で、何處か話の倉とか云ふ處にあつて、さうしてそれを持つて來て子供に充行ふ、と云ふのが今迄の考へ方であります。勿論その一つ々々の童話は話の倉にあるのでありませうけれども、幼稚園に於てその童話を取扱つて

行く取扱ひ方は生活と全く別なものを、たゞ生活の中へ押込んで行くのじや、之は昨日申しました趣旨が充分徹底しないと思ふ。

今迄の遣り方は――良い悪いは別としまして――兎に角、斯うじやないかと思ふ。子供が遊んで居りますと云ふと……詰り生活をして居る、何時も申します通り生活式の保育をしやうとする時は、――其處へ保育項目を持つて行くので實に困る、と云ふ事になるのでありますが――その自由遊びなら自由遊びを子供が生活して居ります時に、そのお話と云ふものゝ持つて行き方は、まあ或場合は斯うでありませう「お前達は生活を止めて集つて來い。これから有益なお話を聞かしてやる。之を聞かせなければ幼稚園教育の一つの事項が成立たないから、お前達は生活がしたいだらうが、此方は之が聞かせ度い。施行規則第二條の保育項目をやらなければならぬ。月曜日の何時から何時迄に當嵌められて居るのであるから兎に角聞きに來い」、と斯う云ふ遣り方であります。そのやり方を、鐘を鳴らして呼び集める人もありませうし、或は新選組を出して集めて來るやり方もありませうし、或は又訓練がちやんと出來て居りますからそんな事をしなくても、何時になると「暫く生活はきりをつけ樣ではありませぬか」と言つて、子供がずうつとお話のお部屋に來ると云ふやり方をして居つて、實にうまく保育項目を生活の中に挾み込む事に於てうまく行つて居るじやありませぬか、と斯う云ふのもあるのであります。それが良いか悪いかと云ふのじやありませぬ。よいとか悪いとか言つちやあ事が簡單であります。殊に「私は嫌ひ」と言つて了つたら簡單でありますから、よいとか悪い、好き嫌ひと云ふ事ではなく、一つのものがあつて、それと別な問題があると云ふ所にわざと惱みを拵へて了ふのでありますが。さう云ふ亂暴な……是が非でも拜聽に來い、と云ふやり方と、もう少し違ふのは、如何にも生活の中へそれが溶け込んで行くから實に面白い、實に上手なこつを持つて居ると稱するやり方があります。子供が二人で遊んで居ります時に一人の子供が、この中にいゝものがあるがね、やらうかな、やる

まいかなと言つて見せびらかして段々引きつけて行く手がありますが、幼稚園の先生も、兎に角話を聞きに來い、と云ふ——彈壓的なやり方じやないですが——「面白い事を聞かしてやらうかな、そりやあ面白いのよ」と云つた樣な事で、何だかもうその詰りさう云ふ砂糖の樣な甘味の樣なものに包まれて了つてさうして、今やつて居ります生活がすつと來て「何ですか〳〵〳〵」と子供が言ひ出す。その「何ですか〳〵」と言ひ出すと先刻の、兎に角自己の生活を止めて來いと言つた形から見ますと、この場面を見て居りますと、子供の方で「何ですか〳〵〳〵」と來たのですから、先生の方で子供が求めて來たと考へる。「何うもまだ二人しか求めに來ないから、もう少し求めさせやう」と思つて先に來た奴を子分に使つて集める。何だか、さう云ふ時の先生の顏と云ふものは幼稚園の先生の獨特の技量で「實に面白いが却々話せぬぞ。まだまだ」。と云ふやり方です。話す先生の心の中では、生活を妨げたのじやないと云ふ確信がある。この通り皆求めて居る。そこで先生が——大人は子供よりも、よい事に於ても惡い事に於ても勝れて居るから——自分が呼び集めて置き乍らしらを切つて「私はあなた方の生活を妨げやうとは思はないが求めて來るならば而らば聞かせやう」。お話とは子供の求める事であると云ふ心理學を根據にして、此處に集つて來たならばやらう。生活の中に、このお話の位置が何うであらうがなからうがわたしや知らぬと云ふ態度。そこから先はなつては居ませぬ。例の……幼稚園の外で紙芝居の人が話して居るのでも、青年會館の童話會でして居るのでも、同じ話方の技術であります。あれはなつては居りませぬ。上手に引きつけた樣にして置いて實は矢張り、お話と云ふものを……此方がやらうとして居る目論見を話すから其所で、二つになるのでありますが、私が此處で皆さんと問題にしたいのはそこじやない。それじやない。幼稚園生活そのものゝ中へ、お話と云ふものを何う發生さして行くかと云ふ、斯う云ふ事ですから實に難しいのです。「そんなに難しい事を考へなくていゝじやないか」と仰言るかも知れませぬけれども、昨年の私の講義をお聞き下さいました方は問題がそこに何うしても落ちて行くと思ふ

のです。幼稚園と云ふものを、斯う云ふものだと考へて行くと、何うしても其所のこころへ問題が辿りついて……或は押しやられて來るのであります。

よききゝ手

そこで、幼稚園生活の中に於きまして、談話と云ふ保育項目の生きた取扱ひをして行く第一の要點は、先生がよき話手である前に、よききゝ手であると云ふ事、其處に先づ要點を置き度いのであります。このきゝ手と云ふ字は私は假名で書きました。字を忘れたのじやありませぬ。わざと假名で書きました。「聞」を書かうか「聽」を書かうかもう既に私は困つちまつた。「本年は貴方は神經衰弱に罹つて居やしないか」と仰言るかも知れませぬが實に困る。此方を(聽)を書き度い。子供の話を重要視して行く以上、この字を書き度いが、之は大變に注意してきく態度でありまして、幼兒の側へ此字を「エーィ」などやつて行くと、妙に生活が吃驚してしまひます。「ヒョッ」と生活がしやつくりをする樣に止つて了ふ。ですから、心の中は斯う云ふ聽き手であるが見て居る時は極めて聞くともなくきいて居る樣な形、又きかれて居る方もきかれてない樣な形で行き度い。子供の方には此方(聽)を扱ひ、きく方には此方(聞)を扱ひ度いのでまぜた字がないかと思つてまあ假名でやつて居るのであります。困つて來ますこんなに苦勞しますから、何うかお察し願ひ度い。

さて問題の本當のもとに還りまして、如何に上手に話をするか、と云ふ事を保育項目としての談話の研究の凡てゞある、とお考へになるのは實に足りないと私は言ひ度いのであります。之は、例へば世の中に童話家として立つ人がありまして、其人が一度何處かに立てば、入場料を拂つて大勢の子供が集つて來てその話を聞く。聞いたら行つて了ふと云ふ樣な、さう云ふ關係で子供に對して童話と云ふものを取扱つて居る先生がありましたならば、話手と云ふ事でいつぱいであります。所が幼稚園と云ふものは全體のあの生活の本體として、其中に先生も這入つて居るのですから、幼稚園の中に發

生して來る話は、子供が彼方で話して居るかも知れませぬ、此方で話して居るかも知れませぬ。啞の幼稚園だつて目では見えますけれども皆樣の幼稚園では、先生の許しを得なければ物を言はないかも知れませぬ。けれども普通なら、所謂心から話して居るその話をきく事が保姆の役目だと思ふ。「幼稚園に行くとね、家庭ではきかれない面白い話を先生がして下さいますよ。お母さんよりも先生の方が話手として上手であるよ」と云ふ事が、幼稚園の談話に關して凡てゞあるとしたならば、私が親だつたら斯う言ひます。

「さうかい。お前の先生は童話家かい。成程何々幼稚園と云ふ横に童話倶樂部と云ふ札がかゝつて居たね。童話倶樂部附屬幼稚園かね」と斯う申し度いのであります。

「家では私の言ふ事をお母さんがちつとも取上げない。幼稚園に行くと先生は私の云ふ事を實によく聞いて下さるのよ」之が、幼稚園が子供に取りまして生活出來る處であつて、その生活は談話と云ふ問題に合致して居る部分に於きましての問題であります。

幼稚園の先生は聲のいゝ人でなければならぬとか、舌の長さの適當な人でなければならぬとか色々話方の方で條件が出ますが、耳のいゝ人でなくちやならぬ。私は、幼稚園の先生で耳の聞えない人は困ると思ふ。子供が物を言ふのに一々先生の處へ行つて、之を斯うと引張つて言はなければ通じない先生では困る。單に感覺的許りでなく心理的に耳のいゝ先生が、子供の言ふ事をよくきいて呉れなければいけない。之は世間でもさうじやないかと思ふ。あの人の處へ一つ話をしに行かうかなと云ふ事は皆さんよくあらうと思ふ。あの人の處へ話をしに行かうかと云ふ事は何う云ふ事でせう。文法的に言ひましたら、話をしに行かうと云ふ事は、話をしに行くと云ふ事かも知れませぬが、話をしに行かうと云ふあの言葉は必しも此方から物を言ひに行かうと云ふ事許りでなく向ふの事を聞きに行く許りではないと思ふ。話を解して、あの人と

生活しやうと云ふ事と思ふ。私は踊りが出來ないから知りませぬが、今日は一つ彼處に踊りに行かうか、と云ふ人がダンス場に行く。私は知らぬが、踊りに行かうかなと云ふのは、彼處に行つて踊りを見に行くのでもなし、一人一人踊つて見せるのでもなしまああの――綺麗だかきたないか知りませぬが――あの人と踊る爲に行くのであります。踊りを介してあの生活をしに行くのであります。

話をしに行く、と云ふ時に私が第一に要求する事は、きゝに行く事。向ふが話の材料を持つて居る事は勿論一つの條件でありますが、此方の話をきいてくれる事が必要な事じやないかと思ふ。その意味で幼稚園の先生はいゝきゝ手でなければならない。そのきゝ手である人は――こゝに色々問題がこれから發展して參りますが――よききゝ手であると云ふ事の爲には、その子供がその話の中で何う云ふ用件を傳達しやうかと云ふその點も、よく注意して聞いてやらなければいけない。

まあ、よききゝ手と云ふのは……吾々の日常の生活に於て、話のよく分る人と云ふ時には、此方の用件をよく聞いてくれる人であります。中には分らぬ人がありまして、いくら言つても此方の用件が通じない人があります。歸る迄、金を借りに來たと云ふ事が分らない人がある。四五日經ちましてから、先般の用件はさうではなかつたであらうかと云つて來る人もある。よききゝ手は、向ふが「先生」と云つて來た時に「水が欲しいんですか」「先生」「やつたんですね。バンツが濡れて居るんですね。」と云ふ事がよく分る。「先生」と云つて來た時に「はつきり仰言い」。なんと云ふのは側で聞いて居ると、私は分らぬと告白して居る樣なものである。「先生」と馳けて來たのを「何か用？」と云ふ人がありますが用がなくて追馳けて行く奴はない。その位の事はちやんと分る。何も、先生の方が分り過ぎる必要はない。之は訓練の上からもよくありますまいし談話と云ふ問題は出て來ませぬ。「ね、ね」と言つても「若し」と言つても「あの」と言つても、「あのが何うした」と云

ふ意地の悪い事は言はないで、その中の用件をちやんと聞き分けてやる。所がこの方はまあ發展して、日常談話の方へ這入つて行くのでありますが、もう一つ、子供は用件ばかり持つて來るものじやなくて所謂心境を持つて來る。人が人に物を言ひかけます時には單にその用さへ足りればいゝと云ふ場合と、

もう一つ、此方に或心境がありましてその心境を向ふへ傳へ度いと云ふ樣な氣持で話すものじやないかと思ふ。私が昨日、恐らく皆さんの多數の方に始めてお目にかゝりますと私の處にいらして下さつてニコ〳〵と笑つて下さる方がある。其時に「何か御用ですか」と言つたならば非常な間違である。用はない、久し振りで會つて……まあ會つて嬉しいと云ふとなんですが、會つて嬉しいと云ふ樣な心境をニコ〳〵と出していらつしやる。さうすれば私の方で心境を汲み取らなければならない。子供が、いも蟲が轉つて居るのを見て驚く心境を持つて居る事がありませう。それをよくきいてやるのでなくちやならない。幼稚園保育項目の中に、談話と云ふものがある以上先生は話手であつてきゝ手でないと申されませう。而も今迄保育項目の談話と云ふ事に對しては、話方の方ばかりに研究が偏して居つたのじやないかと云ふ事は申して宜らうと思ふ。極端に申しますと、幼稚園の先生は童話家じやない。話が上手でなくても聞き方が上手ならいゝ。うつかりこんな事を言ひますと何うなつて來るか分りませぬが、まあ言つて見ればさうだと云ふ譯であります。

よき返事を

さて、その用件を理解した時に、そのきゝ手であると云ふ事は、きゝ手であるだけでは談話になりませぬ。向ふは談話をして居る。それを此方は聞いて居るんですから宜しいのですが中には斯う云ふ人がありますね。子供が何か言つて來ると「あゝ〳〵〳〵」何が何でも「あゝ〳〵」まあ實に大きな、紙屑籠の樣な腹を出して如何なる用件も「あゝのみ込んだのみ込んだ」と云ふ顏をして居る。子供はおなかを觸つて見て「確に先生這入つたの、何だか受取つた樣な顏をして居るけれど

も後から抜けてやしない？」實に心配である。吾々もさう云ふ事がある。あまり偉い人の處に行つて下らない話をする。「私は實に今煩悶して居る」と云ふ樣な事を言ひますとその人が「あゝく」と云ふ。談話が其所に成立つて來ない。皆さんは偉い人物だか、うるさがり屋だか、面倒くさがり屋だか知りませぬが、兎に角、聞いたら返事をしておやりなさらなければならない。その返事から話がものになつて來ます。中にはもう返事を一つか二つ持つて居る人があります。何うした加減か幼稚園へ始めて奉職した時に先輩の人が、子供が何か言つたら「さうを」と云ふ僻があつた爲に「あらさうを」それで一切承知して居る人がある。私外國に行きまして、外國人の言ふ事が分らない。知らない國の言葉であるから分らない。分らないと私は、イエスかノーか何方かに相違ないから代る〳〵使ふ。向ふが親切さうな人ならばイエスを三つにノー一つ、向ふが不親切さうな人であつたらノー三つにイエス一つ、さうして向ふが變な顏をすると直ぐ「ノー……イエス」「イエス……ノー」と云ふ。そこで幼稚園の先生も、もつと上手で、いゝ言葉を持つて居て、子供の顏も見ないで「先生此子がものを言つて居ますよ」と云ふと「あらさうを」と云ふ。私共が色々の書類に目を通さないで判を捺すのをめくら判と言ひますが、さう云ふのはめくら返事である。めくら返事で擊退して居る。子供の方からは心もとなき至りであります。子供同志で「先生がね、言つたよ、あゝと言つたよ」「あなたの時何と言つた？」「矢つ張りあゝと言つたよ」と云ふ。之も先生の方から言へばその位でいゝでせう。一人々々そんなに事を分けてやらなくても大抵分りきつて居ると思ひますがそれじや話が發生して來ませぬ。そこでよききゝ手であると云ふ事には、當然返事をしなくちやならない。この返事と云ふのが……返事をあつさりすればそれだつて濟みますが、返事を丁寧にすると其所から話が始つて來るのであります。この返事と云ふものは大人同志でも却々難しいものです。作法なんかでも、人樣に物を申上げる事許り先生が敎へますが、人に言ふ事よりも返事の仕方と云ふものは、より大切なものであります。まあ、私此處でお話して居りますが。此處では皆私ばかり話

して居る樣に見えるかも知れませぬが、何うして何うして、あなた方の返事次第です。眼をつぶつて返事していらつしやる方もありますし――私は、深く考へて居て下さるさ思ふのであります――中には大きな口を開けて取込まうさしてゐる方もあります。聞き方一つ、返事一つで話が成立つて來る。西洋の作法でも、イエスさかノーさか云ふ言葉で追拂ふ事は失禮になつて來る。子供が「先生水を下さい」さ言つて來た時に「イエス」さ言へば用は足りる。中には默つて水をやつて、用はさうに足りて居る、さ云ふ人もありますが、水を下さいさ言つて來た時に「水が欲しいのですか」さ言つてやるのは話にする所以である。水を求めて來た者に水をやるのは事務です。之は丁度、往來を水を撒く車が水がなくなるさ柳の下の水の出る處に置くさ水が這入つて來る、あれさ同じです。所が、子供の生活の中から談話さ云ふものを成立たして行かうさ云ふのが主ですから、向ふが水を求めて來る。向ふは水を求めて來るからやるが、其上談話にして行くには「水が欲しいのですか」……水を下さいさ言つて來たのに水が欲しいのですかさ云ふのはおかしな言ひ方でありますが「本當に暑いのねえ先生も丁度水が欲しかつたさころよ」等、何うでも話が出來て行きませう。こさによりましたら向ふが、水が欲しいさ言つて來た時に、欲しいさ言つて來たから上げるんださ云ふ感じを起させないのが返事の祕訣である。「求めて來りしか、然らば已むを得ないから與へる」さ云ふのじやない。色々祕訣もありますが、その方は暫く別さして此方の問題……。

心境に卽して

向ふが或事件に就て何かしら興味を持つてやつて來たさしたならば、興味を與へる驚き、悲しみ、喜び、卽ち普通の凡ゆる分類に這入つて來ます。あの童話さ云ふものを――色々話がごたゝ致しますが――保育項目さしての童話じやありませぬ。童話學の方から言つて、童話を研究なさる人が隨分世の中には面白い人があります。犬を扱ひし童話、猫を扱ひし童話、鼠を扱ひし童話、さ云つた……童話の中に何を扱つて居るかで分類して居る。植物ばなし動物ばなし神樣ばなし、

兎に角斯う云ふ内容に就て淡々として分類して居る人がありますが子供の方から言ひますならば……と云ふより、人間と致しますならば、私は若しもそこの所を生活的に分類するならば、悲しみ童話、喜び童話、驚き童話、祈り童話、うまい事を夢見童話、などと色々やり度いと思ふのであります。その色々の情緒が童話の中にある。その童話の中には猫を取扱つたものも犬を取扱つたものも、亦鼠の這入るものもありませう。そこで、童話と云ふものはその内容の、何が材料になつて居るかじやなく、それに就て何う云ふ心境を持つて居るか。心境が何う云ふ風に發生して行くか、と云ふ事が問題であります。その心境を離れて童話はないのであります。日常の、世間の中から子供が「ねえ先生」と持つて來ますのは、それ〴〵心境を持つて來ますから、その持つて來た心境を先生はグッと握るのであります。之は必ずしも子供ばかりじやありませぬ。誰に對する場合でも、人が話をして來ました時に……「私は昨晩暗がりで白いものに會ひました」と言つて話して來た時に、その白いものを主にして聞くか吃驚したと云ふ事を主にして聞くか、勿論大事な差別であると思ひますが、殊に子供なんかの場合には……殊に幼稚園の子供が持つて來る話は、材料的内容から言つたならば大した上手な聞き方をしてやらなければならぬ事は持つて來ませぬ。「さうか猫を見たのか、猫は隨分居るわね」と云ふ事になるのであります。「蛙が居た」「蛙？例の蛙、別に變つたのじやないんでせう。」と云ふ樣な話になつて了ふ。そこで、その内容に就て「先生蛙が……」と言つて來た時に、驚いたのか、可愛らしいと思つたのか、何だか此頃は雨ばかり降つて蛙が喜んで居る、と云ふ氣持を持つて來たのか、そこの所を摑へて行くのであります。其所のこころを摑へてそれに對して返事をする。その返事は、用件の場合ならば先生がイエスと言つて呉れたならばそれで用が足りればいゝから早速歸るから、談話は其所で切れるのでありますが、「先生、私は蛙を見てびつくりしたのよ」と言つた時に、その先生が「さう、びつくりしたの、まあ……」と受けて呉れると、今迄吃驚して居た以上に吃驚して來るのであります。今迄吃驚して居た事が先生の返事の善し惡しで更

に強くなつて來る。單に強くなるばかりじやありませぬ。蛙に就て驚いて居つた、蛙がピィ〳〵こやつて暗がりから出た。それで吃驚して居つた。何となしに驚いて居つた。何所を要點とした驚きかは、はつきりして居りませぬ。其時先生が「後足で斯うやつて……。」と云ふと、驚きが纏つて來ます。何も理窟で「あなたの驚きたるや漠然として居つた。驚きの所以は、前足よりも後足に跳躍力があるからである。」と云ふ事を言ふ必要はないんです。けれども「さう、あの後足でバーとやつたの」と言ひますと、「私の驚きたる所以、實に其所なんだ」と云ふ事が、先生の返事で出て來ます。或は先生が子供の顔を見て居りますと「さう、びつくりしたの」「そいでね、先生の處へ直ぐ來ようと思つたけれどもびつくりして見て居たら幾つもするのよ」。幾つもする、と云ふところで驚いたならば先生がそれを捉へて「本當に根氣のいゝものね」と言つたならば、根氣と云ふ所に中心が行きます。昔々小野道風あり、と云ふのはその驚きの要點から話が續いて行くと思ふ。小野道風の話をするのが良い惡いと云ふのじやないが、小野道風の話をするに就ても、此頃は蛙の居る頃だな、と小野道風を聯想する。子供が生活して居るのを引張つて來て「有益な話をしてやらう。所で、有益なものにも色々あるが今日は、榮養料理豆腐の話をしてやる」と云ふ。何處に豆腐が出て來たか分らぬと云ふ事になる(大笑)。私は、何時も小野道風の話をしなさいと云ふのではないが、驚きの心境がずうつとそこに緊つて行く道が出來ると思ふ。

この子供が話して來ました事を上手にきゝ殊に上手に返事をしてやると云ふ樣な事を申して居りますと、皆樣の目の前に二つの場面が或は出て來るんじやないかと思ひます。

一つは所謂自由遊びの中に於て子供が勝手に遊んで居ります時に、先生の處へ來て話す。そのまあ場合、それからもう一つは自由遊びと大變に違つたものとしてお部屋の中で設定的に行はれて居りますあの時に、これは子供がさうがやゝ〳〵と話して居るのではない樣でありますから、其處で先生がちやんとお話承り係と云つた樣な顏をして控へて居る。中には

順番に「誰さん何か云ふ事はない？」「それが濟んだらその次に話がない？」中には氣のいゝ子供が一人で話して居ると他の人は話が出來ぬと云つた樣な場合に、砂糖を鹽梅する樣に按配する場面とあの二つがくつきり別の世界として皆樣の目の前に出て來はしないかと思ふ。其處で所謂自由遊びの中に起りますものは極くながらかなものでありますが、お部屋の中で所謂設定的保育をして居ります場合、その場合これの方に關してはごうも私、昨年の私のお話をお聞き下さいませぬ方がありますれば私の書きました本の廣告を文部省の講習でする譯ではありませぬが是非一つよく讀んで頂き度いと思ひます。その自由遊びでなくお部屋がきちんとなつて居る時に鐘を鳴らして一齊的に四十人が同一にきちんとして居つてその形で話す其處へ私の云つて居る樣な事を持つて來たつて話が始らぬのであります。

其處で幼稚園全體　もつと生活的な生活形態にしておいての話である事を充分一つ御承知を願つておきたい。部屋の中に居ります時でも子供は先生に何か云ひたくなれば勝手に先生に云ひに來る事の不思議もなく出來る樣な豫めの生活形態を此處に想像して頂かぬと問題がこんぐらかつて來る事と思ふ。其處でそのまあ形態を私勝手に描かして頂くならば子供が先生の處へ來ましてある驚きを語る、先生が「さうを、びつくりしたでせうね」と斯うまあ話をする。そのびつくりしたでせうねと云ふ感情情緒それを基にして二つの發展が出來て行くのであります。今迄の考へ方では子供が蛙の話をして來ましたら蛙と云ふものがある興味をもつて來たとだけ取扱ふのであります。又さう云ふ樣なものもあるかも知れませぬ。毎日蛙の事ばかり云つて居る。よく調べて見たら祖先が蛙だつたと云ふ樣な子供もあるかも知れませぬ。併乍ら私の此處で取扱ひ度い、扱つて行く道は其處を中心にしないで、其處を中心にしますと、斯うなつて來るのです。「皆さん太郎さんが蛙に就て驚いて蛙の話をして居ます。蛙に就て興味のある人は集つて來い」斯う云つた譯になつて來るのであります。所がその蛙じやない。驚いたと云ふその興味、驚いたと云ふと先生が、「さうを、私は昨日ね、矢つ張、びつくりした事があ

る」と斯う話をすれば蛙と違つた問題に自由に這入ると考へるのであります。「先生何で驚いたの？」「私はね、なめくじで驚いたの」さうすると、片方の子供が「蛇で驚いた」それは實に三すくみになりさうでありますが、その材料に就ては、蛙、なめくじ、蛇と三すくみでありますが、「驚いた」と云ふ事に就ては共に語るに相應しき仲間になつて來るのであります。これは普通に大人が話して居る間に話が次から次へと續いて行くのもそれじやないかと思ふ。中には人が話をして居りますと、その人の話を聞かないで、例へば私は汽車に乘つて旅行をした。その汽車が大變に面白かつた。實に面白かつたと云ふ話をしきりにこつちの人が話をして居る。話して居るのを聞いて「面白かつたでせうね」「よかつたでせうね」「ごんなに面白かつたでせう」「何しろ早かつたでせう」で斯うまあ云つて居る中に汽車の事は頭になくなつて自分が曾てヨットで海をずつと横切つた時のあの早かりし事よ、愉快だつた事が一ぱいになつて「面白かつたでせうね」「早かつたでせうね」「愉快でせう、面白かつたらうね」と云ふのは汽車の興味に聯想的に話を合して居るのではなくして、その面白かつた旅の面白さと云ふ事でその面白かつた話が受答へが出來るのであります。

其處で都合によりますと、向ふが汽車の話をして居るのを抑へつけて「汽車なんか鈍いのよ、私がヨットに乘つた時は」と斯う話をして行く人もあるかも知れませぬ。其處で話が擴くなつて行く。私の汽車は、二人引であつて後押しがついて居つた、いゝえ汽車に羽根が生えて居つたのである。と云つた樣な、昔ギリシャには羽根が生えたのがあつた。昔支那にはね、何秒の間に宇宙　廻る早さ、なんて材料に結びついて行くのではなく、その驚きの感情に結びついて行く。凡ての人が話をして行く時、次から次へと話がはずんで行くのはさう云ふ心理で行くんじやないかと思ふのであります。同じ話題でなければ話をしちや不可ぬと云ふのも非常に無理な場合でありますが、其處で先生が驚いた話をして驚きを受取る。びつくりしたでせう、先生もびつくりした事がある、昨日實は私は斯うだと話をすると其處で話が出て來ると思ふ。今迄の話

では斯う云ふ事許りだつた。兎に角子供を集めて、これよりお話始め、何の話が始るか解らぬ、兎に角信頼して待つてろ、それで子供は恐らく何等の感情なしに待つて居るのであります。何等の感情なしで唯お話をこれから承つて如何なる感情が心の中に起るか、吾乍ら樂しみで、手づまを見て居るこ同じ樣な…其處で先生は話をして行く中には、全くそれこ違つた心境に於てさつき迄生活して居つた子供が、まるで違つた處に行かなければならぬ樣に、餘儀なくされる事もありませう。

先生はそれじや餘り出し抜けだこ思つて心境整理こ云ふ樣な段階で「世には驚くべき事が隨分ある。私だつて誰だつてびつくりする事がある」こそろ〳〵びつくりの處に話をして行く。そしてびつくりの話驚いた話に向けて行く。これが從來の話の仕方の一つの技術、テクニックの法こ云ふ樣なものであつた。私の今云つて居ります事は外の話をもつて來て子供の心情に觸れて結びついて行く。さうすれば生活の中に話が這入つて行くこ思ふのであります。これには二つの條件を必要こするかこ思ふのであります。二つの條件の一つは先生が隨分話を餘計知つてなくちやならぬ。事、此處に至つて問題は極めて近火になつて來ましたが——近い火事になつて來ましたが——兎に角話を澤山知つて居なければならない。今迄は幼稚園の先生は殊によりますこ、明日話をする用意を二つか三つまあ一つ、大抵一つ、若しアンコールがあつたら何うしよう、こ云ふのでもう一つ位拵へて行く位が周到の用意であつた、話を色々もつてなくちやいかぬのである。談話こ云ふものが保育項目である以上は、イギリスに行く人は英語を知つて居なくてはならない如く、ドイツに行く人はドイツ語を知つて居なくてはならぬ如く、幼稚園へ來るには理窟では子供こ生活が共に出來ないのでありますから、生活保育が出來ないですから、話の材料は先生は澤山もつて居なければいけないのであります。一つ〳〵の話を旨くするの不味くするのゝ問題は第二第三の問題で兎に角澤山話をもつて居なければならぬのであります。所謂ステージに立つてお話會を開い

て行く童話家でありましたら十八もつてればいゝでせう、私の話十八番とか十八もつて居ればいゝのであります。聞く方も地方も段々變つて居れば二つでもいゝのです。そしてひよつと前を見て前の話を聞いた人があれば胸がどき〳〵すればそれだけの話でありますが此處では子供がどんな感情に出て行くか解らぬのですから、その心境に相應しきお相手をして行くには、あの太閤樣の御相手をしました曾呂利新左工門と云ふ人は話の材料を澤山もつて居た人、まあもつて居たと云ふより、其處で創作した頓智頓才の人であつて、豐太閤樣が「世の中には馬鹿も居るものだな」と仰有れば太閤樣が考へて居る以上に馬鹿の話をしてお相手が出來るのであります。「世には可愛想なものがある」と云へば曾呂利新左工門「いや拙者が先般逢ひましたものは」と嘘でも何でも旨く話が其處で出來て行くのであります。其處で豐太閤樣は自分の心境に則した話が出來る。太閤秀吉は「拙者は實に驚いたのである」と仰有るのに驚きは仕舞つておいて悲しみの話を申上げると云ふのでは御氣に入るまいと思ふ。幼稚園の先生は何も子供の御機嫌をとつて行くのではありませぬが、何處迄も保育項目を生活の中に發生さして、生活の中に成長さして行かうとするにはその用意がなくちやならぬと思ふ。幼稚園の先生の話が旨い不味いは問題ではなくて澤山知つて居ると云ふ事が問題であります。都合によつたならば舌い話を知つて居るばかりでなく、其處で咄嗟に作つて行つても宜しいのであります。先生が話が澤山あつて色んな心境に相應しき話をすぐ出せると云ふ事が必要であります。これが出來なければ旨くきく事は出來ませぬ。私が若しこの點で保姆採用試驗と云ふものをするのだつたら、話をいくつ知つて居るかと云ふ事を調べて、尠くも一萬以上知つて居なければ採用しないと云ふ、この位の標準にしなければならないと思ひます。

それからもう一つは心境に卽して其處に話を發生さして、其處で實際に、育てゝ行かうとするにはその話の旨い先生が話をなさる相手が何人あるか、と云ふ事に就てこれを氣にしてはいけませぬ。生活はそんな聯隊だの大隊だの中隊だとの

相手の人員で決つて居るものじやない。或場合には太郎が來まして驚きを語りませう。先生も驚くでせう。その驚きの顏を見て驚きの光景を見て、「何うしたの」と寄つて來る子もありませう。或はひよつと見ると手の明いて居る、遊んで居る子供があるので「びつくりした話があるのよ」と呼びかけるのも宜しいでせう。鐘を鳴らして「お話を聞きに來い」と云ふのとは違ふので「こんなに太郎さんが驚いたの」と繫ぎをつける。或は子供同志が數人寄つて遊んで、互にクシヤ〳〵〳〵云つて居る處に先生が顏を出す。今皆で話して居る所なんですが、と云つて始めからグループを造つて居る。始めからグループになつて居る場合もありませう。兎に角先刻お斷りしました四十人が四十人耳の穴を明けてお話を聞かうと待つて居ると云ふ形を要求しては今の私の申して居る事は恐らく成立ちませぬ。其處で折角先生が澤山知つていらつしやるお話をなさるのでありまして、然も御研究になつて居るお話をなさるのでありますが、相手は何人でも構はぬ、と云ふ、其處に根據をおいて下さらなければならないと思ふ。何人でも構はぬと云ふ事は消極的に云へば、必ずしも揃へて話すと云ふ、あの修身講話の樣な形のものを幼稚園の談話形式としないと云ふ事でありますから、幼稚園保育項目としての談話は相手の揃つて居ると云ふ事を一つ絕して仕舞はなければ生きて來ないのであります。ほんの數人ばかりで話して居る事もありませう。あんな立派な話をたつた二人を相手に話して居る事もありませう。それでちつとも構はない、然もさう云ふ事を意味するのみならず、私のもつと云ひ度い事はその少數或は一人二人を相手にして居る話がそれが本當にしつくりと先生の心境が高潮して行けば自ら話を聞くグループが出來て來る事を信ずるのであります。子供が二人でジャンケンしてたつて皆んな來て「入れてお呉れ」と云ふのであります。一人が蟻の穴を見付けても「何に」と云つて寄つて來るのです。先生が其處にお在でになつて眞實の話をして子供がへ「エー」と云つて驚いて居る。その光景が廣くもあらぬ幼稚園の一隅に行はれました時に、子供はそんな事より一層面白い生活をもつて居る子供には影響しませぬでせうけれども、生活にも色々あつ

て、今すき間のある子供でしたら「一體何に」と手をふり乍らやつて來るでありませう。少數を相手にして居る話が集つて一つの全體になつて來る位でなくちやならぬし、なるからこれが生活の中に這入つて來るやり方から申すのであります。この點に就て皆さんは話を澤山知つて居る人であると同時に緣日のあの話をする人と同じ樣な仕組でなければならぬと私はさう思ふのであります。緣日のあの商人に私は實に同情する、又非常に感心する。たつた一人か二人の人を相手に話して居るけれども――東京中の人が集つて來るんじやありませぬが――東京中の者が集つて來る――集めなければならぬ話をしなければ、と云ふ態度をとつて居らなければ、あの話は決して生きて來ないのであります。

談話と云ふものを一例にとつたに過ぎませぬけれども、保育項目を生活の中に發生させ發達させ生活の中に育てゝ行くと云ふ事はこんな風なこつからして行くかと思ふのであります。これを更に云ひ換へますれば、始めから聞かせようとすると無理が起ります。人の話を聞く所に自分の話のきつかけが見付けられて來ると、斯う云ふのが生活の自然の法則ではないかと斯う思ふのであります。

(三)遊戯の場合

遊戯の方に就きましてはどうも斯う簡單に行かぬかと思ふのであります。遊戯の場合には若し子供の方で踊り出しますならば、その踊をこつちから伴奏をつけて行く、斯う云つた樣なやり方は出來る場合もありませうし、出來れば大變にいい事と思ひますけれども、どうも實際に於て中々難しいかと思ふのであります。其處で遊戯の場合に於きましては私はこれをぐつと逆にして行くのも一つの考へ方と思ひます。話は子供の方からずつと何時の間にか、とうとうこれが話になつて來る。遊戯の方はどつちかと云へば先生が先へ其處で踊る。遊戯の方から子供の方へずつと及んで來る。斯う云ふ道筋をとるべき外ないかと私は考へるのであります。その所謂先生の方が先に踊ると云ふ事を字義通り解釋して與へて來ます

と、兎に角先生が氣狂ひ踊をやつて居る、子供は傍にやつて來て自らつられて踊出して了ふ、斯う行けばいゝのであります。これはお花見なんかでも皆んなさうであります。なにか踊つて居りますと皆んな其處へ寄つて來て踊ります。盆踊なんかでも好きな人があつて先に踊つて居ります。それへくつついて來ます。所謂このやり方、先に踊ると云ふ事をもう少し廣い範圍に解釋しまして、或は先生が數人の子をかたらひまして其處で踊るのは宜しいかと思ひます。先生が先に踊つて居なくちやならぬと、窮屈に解釋しなくてもいゝ。數人の者を連れて來て踊る。先生ばかりが先に一人で氣狂ひ踊をして居たつて子供はどうしても這入つては來ない、出ては來ませぬから數人でやつて居る方がいゝ。

或は又踊を踊ると云ふ事でなく、その踊のもとゝなります伴奏の樣なレコードをかけておくと云ふ事をやつてもいゝかと思ひます。何か踊を子供の方へ引出さして來るもとを先生の方が造つておくのであります。但しそのもとを造つておくと云ふ事は、子供を集めて「さあこれから踊をしませう。それには斯うなさい」。と云つてして行く今迄のやり方とは違ふのであります。これでは所謂保育項目が幼稚園の中で一つの宿を借りてやつて居るやり方になりますが、幼稚園の中で先生が踊つて居る、或はレコードが鳴つて居る、それが自ら子供を踊の方に導いて行くと云ふきつかけになつて來ると云ふ事になりますならば、これは自ら生活の中に這入つて行く事になりはしないかと思ふのであります。踊り出したその踊を其處から何う云ふ風に指導して行つてもいゝでせう。此處の所でトン〳〵と拍子に合した方がいゝ。「御免なさいよ、今度は私があなた方の踊を引出すのじやなくて、踊り方を正しくする爲に御手本をしてみますよ」と所謂指導法に這入つて行つても構はないのでありますが、出發點は其處にあると考へるのであります。これが今度の戸倉先生の講習の中にあるか何うか私は實は今度のはよく承つて居りませぬので知りませぬが、昨年の場合には特に先生と御相談をして所謂團體遊戯指導と云ふものを特別な題目として入れて頂きました。その團體遊戯指導と云ふのは私の考へでは子供が一人〳〵遊ぶ遊

びの中には生活的なものが多いのでありますけれども、團體的にやつて居る時には大體はこれは遊戯になつて來るのであります。鬼ごつこでも輪を作つて何うかして居るのでももう所謂團體と生活する時にはもう既にこれは個人的なものと違つて多少の規約をもつて居りまして、互に集合的に樂しもう、と云ふ所が藝術的になつて來る。昨日申しました樣に一人で遊んで居るあの遊戯は藝術にはなりませぬけれども手を繋いで歩いて居る時は一人が早くやつたり遲くやつたりしては面白くないので其處に規約と云ふものがあつて團體的な遊びをやつて居ります。その團體的な遊びをやつて居りますそれを何う云ふ風に摑へて行かうと云ふ事を考へて、其處からこの幼稚園の遊びと云ふものを、遊戯と云ふものをずつと引出して來ようかと、これが戸倉先生と御相談して居つたのであります。その團體的な自然に子供が所謂保育項目と關係なくやつて居ります色々な團體遊戯、あの團體遊戯と云ふものを指導して來ます時にはこれは餘程生活の中からずつと遊びの方に、もつて來たいのでありますが、併しこの團體遊戯と云ふものが實は私は昨年は團體遊戯をすると云ふ事を、其處を摑へて、其處から引張つて參りましたが、もう一つ突込んで來ますと團體遊戯と云ふものが子供の中に自然に發生して來るが、矢ッ張これは遊び方として、何處かで習ふと云ひますか、傳へられると云ひますか、眞似すると云ふか、さう云ふ何處かに一つの遊び方、即ち手本の樣なものがあつて出來て來るかと斯うまあ考へ度い。蟻とか蜂とか穴を堀るとか個人的な遊びは手本なしで子供が始めるのであります。トウダンスとか何とか輪を作つてするとかは幼稚園に來て先生から特に習つたものではありませぬが子供達の中には何處がそのもとがあつて始つたのであります。そして小さなものが段々大きな遊びになつて居るものだと斯う私は考へるのでありまして、そこで理論的にはどうも遊戯と云ふものは矢張誰かゞ先になつてします。それをやつて行く事でそれを出發させる外はないと考へるのであります。ずつと古い事でありますが、未だお茶の水に居りました頃にある先生にそんな風な事を始終話して居りまして、そして遊戯室へレコードをかけ放しに

してわざと先生が其處の座をはずして見た事がある。さうすると其處へ子供が這入りましてレコードに合せて踊つて居つたのであります。この事は外國あたりのやり方を見ますと、珍らしくない事でありますが、まあ私の經驗としては非常に愉快な一つ場合であつた。卽ちレコードが先にありまして、そのレコードに合せて子供が何かやつて居る。所謂リズムに相當な運動を子供が創作して居るでありませう。所でそれを何う發達さして行かうかと云ふ所に隨分難しい問題があらうと思ふ。今も私解決出來ないで殘つて居ますのは、その子供がレコードを聞いて自然にやつて居つた。レコードが終ると續きをかけてやる興味が湧いてやります。レコードと數人の子供だけにおいておけば、或る長さずつと續くのでありますが、先生が其處へ何う這入つて行くかと云ふ事が實に難しい。若しその時に聲をかけて先生が這入つたならば子供達が散つて了ふのは普通だと思ふのであります。若しさうやつて居る所に先生が這入つて來る。此處のトン〳〵〳〵と云ふ所が旨く合はないが、「先生、何うしたらいゝか教へて呉れませぬか」と斯う、斯う出て來れやあ、大變いゝ都合のいゝきつかけを與へられるのでありますが、これは幼稚園の程度では隨分難しい事ではないかと思ふのであります。所謂リズムに引出されて夢幻の樣な氣持に踊つて居る時、這入つて來る先生と云ふものは大體子供の幻を覺ます方の任務をなさる方であります。踊つて居る子供に大きな手を叩いて「旨い〳〵」皆でさうしてやつて居ると實に旨い、と云つたら、子供はすぐに幻から現實に歸つて來る。「アラきまりが惡い」とか「可笑しい」とか云つてやめて了ふ。これを何う導いて行くかと云ふ事が問題であります。何うしても私は先に先生が踊つて居ると先生につれられて踊つて行くのでなくちや保育項目の眞實的なものを充實して行く方へもつて來るのに便利なものになりはしないと思ふのであります。

其處で先刻のお話に就て先生は澤山お話を知つて居なくちやならないと申しましたと同じ釣合で話しますと、幼稚園の先生はごうも踊る先生でないと困ります。今日の先生で遊戯を何う指導なさるかと云ふと、「さあ、遊戯をしませう」と云

つて先生はあの大なるピアノの後に城塞を構へて「さあ踊りなさい。踊りなさい」「誰が旨く踊れるかな」何て云つて皆んなが踊れば彈いてやる」と云ふのでは先生が踊そのものを其處へ相手の中から引出して來ると云ふ事に就ては矢張足りないのであります。勿論幼稚園で肥つた身體の重たい先生もありませうし、神經痛の方もありませうし、踊と話が……踊が何處からか落こつちまふと云ふ話の得意な人もありませうから、誰も彼も踊らなければならぬと云ひきる譯には行きませぬけれども、けれども併しその幼稚園の中に踊る先生がいらして、その先生の踊つて居る事で子供の踊が引出されて來る事がなければこれが生活の中に引出されて來る事が難しいかと思ふのであります。遊戯の事、その事をお話するのではなくて、保育項目の中に製作、(手技)、觀察、(遊戯)遊戯の中でも自由遊戯は何でもないのでありますが、生活の中に一番生の儘入れて行かうと云ふ事は、談話と所謂形の決つた遊戯とこの二つであるかと思ふ。何故さうであるかと云へば、實に無理もない事でありまして、談話は發生して文學となつて人間生活の現實と離れて行く傾向にあるものであり、遊戯は所謂舞踊ドラマとなつて吾々人間の生活からずつと離れて行くものであります。さう云ふものでありますから、あんな幼稚園の中に居る時でも、日常生活の實際の中に取込むべく隨分離れて居る所が多いものでありまして、この二つを如何に處理して行くかと云ふ事が詰り保育項目を取扱つて行きます要領を考へる一つのサジェスチョンを與へるものであると思ふのであります。前にもお斷りしました樣にこの保育項目の取扱ひの材料に就て私は困つて居る材料、その困る問題を申上げまして、そのこんな風な所が多少考へて行く價値がありはしないかと云ふ所に皆さんのお考を促したに止まるのであります。(第二日了)

三　保育項目の效果的ねらひどころ

二日間大變綺麗な中幕が這入りましたが、又前に續けまして話して參ります。

この間は保育項目と云ふものは、曰く唱歌とか曰く手技とか云ひますと、それ一つ〳〵がこゝぐ〳〵しい樣な名前になつて居りますけれども、子供の生活の中にあるものであり、生活の中から出て來るものである。其處を捉へてそれへ結びつけて取扱つて行く所に、所謂保育の中に於けるあの項目の位置がしつかり立つ樣な事を申上げたのであります。

其處でさう云ふ風なその立場、即ち子供の生活の中から見て行きますと、保育項目と云ふものは極めて生活の中にある自然のものになつて了ふ。子供が話をして居ります。それを此方はよきゝてとなつて、其處から談話と云ふものを發生さして行く。遊戯の方はさうは行きませぬが多少此方が先に踊りかけて生活の中へ持ちかけて行く。觀察とか製作とか云ふ樣なものはそれよりも一層生活の中に其儘捉へられるものであります。

併し乍らこれは保育項目と云ふものゝ保育の中に於ける位置及び取扱ひの要領でありまして、更に方面を換へて、先生……と云ひますか……の側になつて見ますと、その保育項目によつてそれ〳〵の效果、即ち教育的效果とでも申しませうか、尠くも效果を其處に期待……その效果を現はす爲に保育項目を使つて行くと云ふ方面は勿論あるのであります。保育と云ふものは改めて申します迄もなく、子供は子供で生きて居り、先生も半分位生きて居る……子供と較べますと……その生きて居りますものが一緒に生きて居ります其處に行はれて居ります生活事實、これが保育なんでありますから、子供の方の氣持と先生の方の氣持と、兩方がぶつかつて行く。或は解けて行く。しよつちうぶつかつてばかり居る。火花を散らして居る、火花幼稚園もありますし、それがなだらかに解けて行く處もあります。丁度川が海に這入るあの川口の樣なもので海は海の波でよせて居ります、川は川の流れでそゝがうごして居ります。それが旨く行けば何時の間にかずつと海

に入つて了ふのでありませう。殊に子供の方が勢力が弱いならばずつと行く隅田川が東京灣に何處から這入るともなく這入つて行きます。それは東京灣の波が海らしくもない淀んだ海であるからであります。所がその海が海らしい烈しさをもつて居りますれば、其處へ流れて行く川は弱く這入らない强くぶつかつて其處でがや〳〵します。それからあの川の急流が荒波にぶつかつてがや〳〵して居る狀態、あゝ云ふ幼稚園があります。泡立ち浪騷ぐ、傍に居る者は雫でびしよ〳〵になつて了ふ樣な幼稚園であります。其處で先生の方から子供の方を抑へて、まあ此方から流れない時はお前、勝手にやつてもいゝ、併し此方が流れて行く時はお前の方で制して呉れなきや困るじやないか。斯う云ふ行き方で行く幼稚園もあります。それから又、向ふを「うゝ」と唯、猛らしておいて、此方はああ伺ふが生きて居るのに此方が生き樣としてはどうも彼處でがや〳〵しますから、兩方ともくたびれますから、況んや尙此方がくたびれますから、此方はそつと控へて居ります、丁度今、海は上潮でありますから川が逆樣に流れて居ますと退去法をとる保育もありませう。兩方生きて居るものがぶつかつて居る。其處に何時でも保育の問題がある。其處で先生と子供が唯、たゞと云ふのは在來の言葉を借りて云ふので、たゞと云ふ以上はたゞならぬものが何處かになければならないのであります。所謂たゞ遊んで居る時はこれがそれで濟むとして、所謂保育項目なんと云ふものを持出して來ますと、其處で問題が起る。保育項目を注ぎ込ませ樣と云ふ方を第一において向ふの方を後で考慮するか、向ふの波立つ、向ふの勢ひ、力强い生活そのものゝ中で保育項目の問題を結びつけて、此方を捨るんじやないが、此方がなくなるんじやありませぬが、それは寧ろ後から考へて行くが、其處で問題の考へ方に分れが出來て來るのであります。

其處で私の前二日のお話は在來往々にして子供は保育項目なんと云ふ事とは全く無關係に生活して居るものとして、此方から保育項目をもつて行くと考へられて行く從來の考へ方を逆にしまして、子供の方に保育項目が、あの生活の中にあ

るこ、あるこ云ふそつちの方を活かして行く。こつちの方から保育項目を發生さして行かなければならぬ所謂、保育の中に於ける保育項目こ云ふ正しい位置にはならない。斯う云ふ事を申したのであります。從つて云ひ換へて見れば、子供の方の側に先づ則して保育項目の問題を考へたのであります。これが前二日の私のお話、其處を何處迄も認めておきますが其處を認めなければ保育項目にならないこ私云ふのであります。曰く遊戯曰く談話曰く手技曰く觀察こあつても保育項目にはならないこ斯う云ひ度い。それ程子供の方を本體にして生活の方を本體にして考へて行きますが、この「が」こ云ふのは二日の間に「が」こ云ふのが出て來たのであります。二日の間に、一すまあ二日間があつて宜しかつたこ思ひます。別に「が」こ云つたつて、强く響きませぬが、二日の前には子供の方を本體こしてそれを何處迄も考へて居つた。それを今日別に轉向したのじやありませぬ。二日の間につらく考へて見たが、あれは間違ひであつたこ云ふのではありませぬが、二日の間それを、僅か二日の間ちやんこ落つけておいて、「が、併し」こつちにもこつちの所存がある、こ云ふ所に今日から這入るのであります。

こつちの所存は卽ち保育項目を效果的に何うねらつて行かうかこ云ふ所であります。

保育こ云ふ事の中に於ける保育項目は必ずして效果を先にして發生して行くものではないのでありまして、子供の生活の中に成程あんなものがあるな、こ云ふので出て來るのであります。併し乍らこつちの側に就て云へば效果に對する所存があるこ、斯う云ふ話になつて來るのであります。もう一度申しますが保育項目こ云ふものが往々にして先生の方の教育目的の方から、造り出されたものゝ樣に考へられて居るのを、私は絕對に反對する。子供の生活の中にあるものだから、生活こして生長さして行く性質をもつて居るものである。これが保育項目の效果的ねらひごころ、こ云ふものを幼稚園の中で實際に取扱つて行きます要領であり、或は原則であります。然もその子供の中に保育項目をさう云ふ要領で取扱つて

行き乍ら、こつちには願くば斯う云ふ效果が現はれかし、效果的ねらひごころを現はしたいと云ふ所存があるのであります。こつちに所存がある。どうもその幼稚園の先生ばかりじやない。一般の先生と云ふものがさうですか、……何うだか私知りませぬが……所存を持つて居ると、所存を顏の先に出して了ふ人が隨分あります。これは淺はかな人である。胸の中に所存をちやんともつて居つて、向ふ樣に則してやつて居つて、所存は所存で、ちやんともつて居ればいゝ。向ふ樣に則した保育をやらなければならぬと思ふし、所存をもつて居れば所存が先に出てしまふし、どうも其處の所が實際に於て旨く行かぬ樣であります。保育項目の取扱ひ方は何處迄も向ふ樣を主にして行くけれども、その中にこつちには所存があると、その所存を效果的ねらひごころとして、可笑しな假名で書きましたが、本字で書きますと、一口に丸藥の樣にして飲んで御了ひになるといけないから假名で書きました。ねらひごころです。ねらひごころ、さう云ふ意味で何れからやつて行つてもいゝのでありますが、まあ此處にお話をもつて來ます。

（一）談話

取扱ひの要領と云ふ事で談話の事を申しましたのは談話そのものゝ事を語つたのではなくして、保育項目全體に關する具體的一例として談話といふものを引いて來た。今度は談話といふものを一つ拔き出して考へる場合、これには何ういふ所存をもつて居るか。丁度それ〳〵の食物をあてがひます時に、こつちから食はせようなんて接待法はありやしませぬ。向ふが食べたいか、「何が好きでござんすか」と聞いて食べさせるなんて接待法はない。何か好きか、なんて聞かなくつても向ふが好きさうなものは大抵解つて居る。好きさうなものをこつちで考へて御馳走するのですから。……食物に就ては色々な食物がありませう。こつちの食物の方が榮養があると、一つの所存をもつて居る。その榮養を與へ度いと云ふ所存をまるだしにしては食物になつて來ないし、「君が食べたいと云ふから榮養もなくて毒にも藥にもならぬけれども、それ

を持つて來た」と云ふのも食物の出し方じやない。その食物には一品一品の特有のねらひどころが出て來る。談話に就てそのねらひどころは何處にあらうか、と云ふ話になります。これに就てまあ、先づ普通考へられて居ります談話の保育項目の效果はこれによりまして、或は教訓を與へるとか、或は觀察をさして智識を與へるとか云ふ樣な、所謂內容效果……

一　內容效果

この內容效果の中には色々あります。

忠義の話をすれば、忠義と云ふ事に就ての內容效果が子供に與へられませう。親孝行の話をすれば孝行と云ふ事に關する內容效果が與へられませう。親切と云ふ話をすれば親切と云ふ內容效果が與へられませう。これは確かに教育である限り大事な事であるし又さう云ふ效果が現はれるに決つて居りますが、これはまあこゝで改めて云ふ必要もない程決りきつた事であります。つまらぬと云ふのではありませぬ。これは決りきつた事かと思ひます。決りきつた事と思ひますからもうこれ以上申しませぬが、それのみならず私は談話と云ふものを保育項目として取扱ふ時にこれは勿論大事ですが、これだけに止まつて居りはしないかと云ふ事を心配する。「あなた今日は何のお話なさるの」「今日はね、楠正成の話をする。だつて忠義の心を養はなければいかぬでせう」「私はね、もう忠義は先週やつちやつて今週は正直と云ふ事を養はうと思ふから何か正直を養ふのにいゝお話はない？」正直談話集と云ふものを探しますと、ワシントンの子供の時の話、あゝこれがある。さう〳〵これをもつて來て話さう。それをやるのであります。斯う云ふ事は惡い事ではありませぬ。皆さんが子供を教育する時にそれ〳〵大事なる道德的訓育的效果をねらつていらつしやるのですから必要の事でありませうし、それを達する手段としてその內容をもつて居りますお話をお持ちになる事も賢明な一つの方法であります。それも宜しい。ちつ

ども惡くない。私決して反對して居るのではありませぬ。併し此處に私の問題にしたい事は正直と云ふ事を教へる爲に、解らせる爲に、訓育する爲にワシントンの話をすると云ふ事だけで折角の談話と云ふものゝ效果がそれつきりじや、誠につまらないと思ふのであります。若し正直と云ふ事を子供に感じさせ、教へると云ふ目的だけならばまあ、極端に云つて見れば、正直でなけりやいけない。兎に角正直になさい。「私はあなたを正直者にしたくつて堪らないのよ」斯う云つて頼んでもそれでいゝのであります。現に折角ワシントンの話をし乍ら、さうやつて居る人があります。「今日、正直に皆さんがなる樣にと願つてお話をする」、子供は顏を見合して聞かない中から解つてる。「後には正直になるぜ」なんて云つても、先生心配なものですから話の途中で「アメリカにワシントンと云ふ子供があつて……今、私正直の話をして居るのよ、子供の時に櫻の……櫻の話じやない、正直の話を……」絶え間なくそれを云つて居る。さう云ふ事をやつて居られるのは、ワシントンの話をし乍ら、ワシントンの話と云ふもの、それを、折角、あなたが談話と云ふ一つの藝術ですが、その藝術としてお取扱ひになつて居ると云ふ事を餘り無視して了つて居ると云つてもいゝ、が、內容效果をおねらひになる事、それ自體は決して惡い事じやありませぬ。お話の材料を選ぶに就ては、內容效果を充分にお選びになりまして、日本國民として學ぶべき色々な方面に就て行屆いた內容效果のお話をお選びになる。お話選擇の要件としては大事であります。一寸又餘計な事を云ひますが、お話は選擇じやありませぬ。お話選擇は樂屋でする事で、お話とは今子供に向つて今度、舞臺で話して居ると して、「實は私はこの話をするに就て色々と樂屋で苦心したのよ」なんて事は餘計な事です。役者が舞臺に出まして「斯う云ふ風に見えますには、これで色々苦心致しました」なんて事を云ひはしませぬ。その所謂、樂屋の問題としてはお話の內容效果を大いに御考へにならなければならない。換言すればお話を選ぶ迄の問題であります。

さて本當に生々しく生々と子供に向つて、あなたがお話を始めて行く段になりますならば、別の問題が起つて來るので

あります。一寸此處で纏めた言葉を使ひます。「教育者は目的に片寄り過ぎて、そのやつて居る事の特質を充分に尊重しない。」と斯う云ふ、これは、吾乍ら大事ないゝ言葉だと思ひます、そのお話をする、お話の目的の方は考へていらつしやる。そのお話をしていらつしやる特質に就て忘れて居るから、お話が本當に生きて來ないのであります。

そこでその所謂內容效果を捨てるんじやない。これはもう樂屋で濟んで了つて居る。非常に大事な事も、今此處で子供にお話をして居る時に何處をねらつて居るかと云ふと、そんなに偉さうな前置きをして居ますが、極めて大事な、

二．聽かせるといふこと

聽かせるといふこと、或は聽くと云ふことを養ひたいのであります。「なんだ、お話をして居れば、向ふが聽くに相違ない。そんな事をねらはなくても向ふは聽いて居ます。」と云ふかも知れませぬが。人の話を聽くと云ふ事は生活に於てかなり特有なる重要なる態度でありまして、相當に教養を要する問題であります。この前に保育項目を生活の中に取入れて行く要領として先生は話の旨い人であるのみならず、先づもつて子供の話をよく聽き得るきゝてとしての優れた人でなければならぬと云ふ事を申しました。先生が子供の話をよくきく人でなければならぬ。紙屑籠の樣な大きなお腹をもつて居る人で、何でも入れちまほうとする人でない事であります。

きくと云ふ事が先づ先生に大事だ、と云つた事と結びつけまして、子供に人の話を聽く事を養はなければならぬ。話を聞くと云ふ事は勿論內容が面白いから聽くでせう。けれども私は內容の面白い、面白くないに拘らず、人がものを云つて居る時にそれを本當に聽くと云ふ事は立派な生活態度だと思ひます。何も私の講演を聞くのに……と事をかう廻り遠く云つて居るのではないですが、假に私の話が非常に面白ければ、どんな人でも聽きます。猫でも犬でも猪でも蛙でも聽きませう。さう云ふ話、よくきくのですが、音樂をやつて居たら、獸がみんな集つて來た。私のつまらぬ話をきいていらつし

やるに就ては所謂、内容效果が養はれたと云ふことは、きくと云ふ特殊なる態度に於て優れたる諸君であると、斯う云ふ事になつて來ると思ふのであります。その聽くと云ふ態度に就て、併し乍ら又、思へらく、皆さんのは多分何時又、私の申します私の話を今此處で聽く爲に來て居ると云ふよりは、後でなんか役に立つだらうと云ふ、その時に、今聽いておかなければ困るだらうと云ふので、今は仕方なく聽いておいでになるんじやないかと思ふ。戸倉先生の遊戯なんかはつひ釣込まれて踊つちやつて、後で忘れちやう事ははつきりして居るんですけれども、此處の場合は取敢えず後の爲に今聽いて居る。これはまあなんと云ひますか、自己お爲ごかしとでも云ひませうか、自分と云ふものは聽くのは嫌なんですけれども、右の手に言ひつけて「何處が大事なのか、兎に角書いておけ」。書いておいて後でひつくり返して見ると。中には氣の利いた人は何か速記していらつしやる樣だから、後は後、なんて他の事を考へて居る。私の此處で云ふのはさう云ふのではないのです。内容の面白いと云ふのでもなければ、後で何か爲になるから、と云ふのでなく、人がものを云つて居る時にこつちが聽いて居る。これだけの事であります。これが出來さうで出來ないのであります。先生だつて子供の話を「きゝ上手」と云ふ事が却〻難しい事と私この間申しました。その先生によつて教育された子供は段々そつちへ行くべきであります。

若しそれがお話の效果としての一つのねらひどころとすれば、さう云ふきいてになる樣にこつちは話して行くこつが大事です。所がこれを又ちやんと云つて居る人がある。「聽きなさい。解つても解らぬでも兎に角人の言つて居る事は聽きなさい。」なんて言つて耳なんか引張つたりして、そして聽く稽古、この所謂聽かせる爲には勿論こつちも聽かせる爲に旨くやらなければなりませぬ。何故お話にあなたは技術をお用ひになりますか。何故話方の技巧に就て苦心なさるか。あの精神を集注する事の出來ない未だ年齢の子供がある時間の間、兎に角先生の話を聽く事を樂しみ、聽く事を生活する。その

練習をさせたい爲だ。と私は言つて居る。子供に話なんかしていらつしやる若い先生の傍へ私が立つて居りますと頻りに斯う旨くやつていらつしやる。子供と先生と斯う話を先生がしていらつしやる處へ時々私立つて居りますと、こつちばかり見ちやあ斯う斯うやつて居る。先生も子供に聽かせるなんて事は考へないで「何うです」なんてやつて居るし、子供の方も「うちの先生、旨いでせう」。と云つた樣な顏をして居る。斯う云ふのはこれは技術を技術として用ひて居る。遊んで居るあの子供に聽くと云ふ練習をするのです。所が技術が餘り拙くつちやあ、聽いちやあ居られませぬでせうね。まあぞんな好きな人が拵へて呉れた御料理だつて餘り不味くつちやあ食べられませぬ。一寸斯う吃る先生の話は、聽き度いと思ふ聽き度いと思つて居る所迄がいゝので始つちやあやりきれないと思ひます。ですから一通り旨くなくちやあいけませぬ。旨くなくちやいけませぬけれども、其處の所で私、實に變な事を申します。餘まり旨くちやあいけないと思ひます。私なんか話をするのにごの位の旨さで止め樣か、と云ふ事に苦心慘憺して居ります。私が一ぱいの話をすれば、旨さそのものに醉つて了ひます。私が水を注いで出しても、向ふが醉ふ程にお酌が上手になり度いと思ふ。「勝手に飲め」と言つても、酒がいゝから向ふが醉つて了ふのでは何處に私の存在が出ませうか。まあ、私の注いで出します水を、それを受け取つて飲むと玉露だとか何とか言つて飲んで了ふ。如何にこれを旨くしようか、と云ふ事も苦心しますが、餘まりこれが旨いと私と云ふものゝ存在がなくなつて了ふ。度々申します。話とはあなたがその子供にして居る事であります。話そのものが幼稚園の中に、フラ〳〵と泳いで居るのではありませぬ。あなたが子供に話をして居る。あなたが居なくなれば話はなくなる。子供が居なくなつても氣がつかないでやつて居る人もありませうが……所が餘まり旨い話、餘まり旨い話と云ふものはつひ其人がなくなつて了ふ。多分此處の頃合は申上げる迄もないかも知れませぬ。「いやそんなに御心配か」と仰有りさうなものだと思ふ。「今、私話して居るんですが、うつかりこれじや私、旨過ぎるかしらん」と御遠慮にならない方がいゝと思ひ

ます。

寧ろこつちが子供に何うしたらつくか、と云ふ事に技巧以上に……やる話の技巧と云ふものも大事ですけれども……その後、何うすればその話がその事へくつつくか。……

あの美味しいお菓子を子供におやりになる時……子供を喜ばせる爲に美味しいお菓子を選んでおやりになりませうが……子供に一寸、やつたらよささうなものを、子供にやつて、子供に持たして、その上御自分の手で又持たして「上げましたよ」「これおばちやんが上げましたよ」貰つたものは「おばちやん有難うよ」「詰らないお菓子ですけど」なんて……家へ歸つて明けて見たら、皆んな潰れちやつた。それでも嬉しいものです。

さう云ふ事をなさるならば、話だつてその人にする。それに行かなければならぬ。中には話を天井にして居る人がある。そりやあ、何か、雲の話をして居るなら別でせうけれども……

或は技術でちやんと、此處で手を打つて、何う……と何處かで習つて來た技術でやるものだから、見えなくなつて了ふ。ここによつたら、子供の頭なんか一つ位、擲つたりしてやつて居る人がある。

その人に話して居るんですけれども、とても妙な人があります。あれだつて二人で話して居る。廣い世の中、二人で話して居る時でも話の相手の顔を見ないで話して居る人がある。私はごつちへ行つていゝんだか、私心配しちやいます。これが私とする。「先生、どうも御機嫌よう」なんてあつちを向いてやつて居る。私は向ふへ廻つてしなければならない。子供に話をする時にはこれへ話さなくちやいけませぬ。兎に角話なるものをこつちはするんだ、「耳を開いて聞いてろ」なんて行き方ではいけませぬ。その話をこつちからちよつちよつとこの眼で話をしなければいけない。眼で話をする。眼を使つて話をする。眼を上げると話を忘れちまふなんて人がありますが……　その眼をちやん〳〵と動かして行かなければなら

ない。一組居りまして、先生が話をして居ります。本日は先生の御眼を頂くものは半分、片方はお話のおこぼれを頂戴する。「今日先生話をしていらつしやいましたね。けれども僕の方には一度も眼が來ませんでしたね」眼をちやん〳〵と使ふ。餘りぎよろ〳〵してはいけますまいが。……

話をその子へする。さうすると向ふは聽くといふ態度が養はれる。聽くと云ふ態度が養はれる。若しその子が先生が眼をちよつ〳〵と使つても聽くと云ふ態度がなかつたならば、何うかして聽かせる樣にひきつけて行く。話なんといふものはまあ〳〵なんでもないんです。私、話はちやんと昨日選ばれてる話で練習の出來てる話です。唯本當に苦勞が要るのはあの子が聽いて居るか、あの子に聽かせるか、と云ふ事に注意を配つてする、中には後で一番終ひに「これでお終ひ」なんて云ふ人があります。「要するにお解りですか」片つ方は「聽かなくたつて解つてら」「あゝさう〳〵いゝの、解りやあいゝの」なんて云ふのは、內容效果に偏し過ぎたものです。この時間が濟みますと、放送局へ行つて放送しますが、放送局へ行つて居りますと、こいつが出來ない。唯、話を天に向つて「あゝあゝ」と云つて居る。「あなた」と云つたつてどんな野郎だか解らない。「あなた」と云つたつて誰も居ないか解らない。向ふの人がどんな顏して居るか。私の眼で睨んだつて何うにも通じない。だからあれは、唯、唯、內容を傳へるだけなんです。

所がさしむかひ、そして僅か十人か十五人の少數の子供を集めて、話手が話を聽く人に結びついて、子供の方では、二回、三回、四回、人の話が聽ける樣な精神的態度に變つて行かなければならぬ。「家の子は幼稚園に行き出しましてから、人の話がよく聽ける樣になりました」と斯う云ふ效果にならなければならない。

三　情緒の素直な受取方

聽けると云ふ事の中に這入つて來る事ですが、一寸其處は內容の方にもう一度進んで行きますと、話の中にある色々な

感情、話とは何處迄も情緒、情であります。何もその人に悲しい、センチメンタルと云ふのじやありませぬけれども、何か話手には情があるんです。その話手の情、その話の中にある情、それがちやんと素直に受取られる態度を養ひたい。これを、情緒の素直な受取方、妙な言葉ですけれども、これが却々なんでもない樣で出來ませぬ。人が悲しんで居る時に素直に聽いて居る中に笑つて居る人がある。さう云ふ人は反對に受け取るのです。人間と人間の觸れ合ひに於て非常に大事な事と思ひますが、さう云ふ事の練習と云ひますか、效果と云ふものは此處に得られる。先生のお話をしていらつしやる時の情緒、お話と云ふのは情緒ですから、そのお話をしていらつしやる時の情緒を素直にそれを受取らせる、お話が解る、と云ふ言葉はお話と云ふものゝ理智的部分に對する受取方であります。「成程、なーる程、さうですか、强い者があつて弱い者より矢ッ張勝ちましたか。なーる程」なんて云ふのは「なーる程」です。その「なーる程」じやないんです。先生が悲しい心をもつて話中の人物に同情をもつて話していらつしやる方に同情して來る。その感情が、情緒が素直に子供の方に受取られて行く。これですね。話のいゝ味ひ方でありますが、話で養はれるのではないかと思ひます。「人の情緒なんか素直に受取らなくたつていゝや」と仰有ればそれつきり……。私は根本に遡つて道德論をして居るのではない。部分的にお話をして居るに止まるんですが人の情緒が素直に受取れなくなつて何うする？こつちに色んな情緒が起ると云ふ話じやないんです。人の情緒が素直に受取れるんです。所がこれをまあ所謂效果のねらひごころとなさいました時に何う云ふ效果を實現して行く可く、皆さんが此處の所では、どうも教育者と云ふものは世話がやけるんですが、「今私は正直な話をして居るのよ」と吹聽なさる如く、此處の所でも「よくお聽きなさいよ。兎に角よくお聽きなさい」と云ふ如く、此處では又、「あゝ本當にね、花ちやん可愛想ね、可愛想だと思はない？」なんて事を仰有る。「先生可愛想で堪らない。先生と同じ樣に可愛想だと思ふ人手を上げて」なんて事になります。これは成程、先生のもつていらつしやる花子に對する悲しみを素直に受取ら

れるとお思ひになるから、仰有るのでせうが……

何故素直と云ふ字を私使ひましたか、それには二つある。

一つはすぐに人の感情を反對的に受取らない。さう云ふ人があるんですよ。實際さう云ふ子供がありませう。花子が可愛想だと思つて話して居ると「あゝいゝ氣味だい」と云ふ樣な、何だか大した、罪もない事を云ふ子と、もう一つ、私が特に素直と云ふ字を使つて居りますものは、觀念を通さずして、と云ふ意味がある。花子の可愛想な事を話して先生も可愛想になつていらつしやつて、話をし乍ら、「あなた可愛想じやないの、誰だつて可愛想に思ふべき筈のものである」と斯う仰有つて子供が始めて可愛想になつて行くのでは、觀念を通して居るのである。折角お話と云ふ藝術的な效果をもつて居りますものをお使ひになる時に、それを觀念でくるんだり、觀念を仲介にしたりするといふ事は實に惜しい。實に惜しい事である。惜しいし、談話としての眞價を失つて了ふ事でもありませう。

其處で目的に就て觀念的に云つちやならぬ如く、此處でも觀念的に云つちやならぬ。

さうだからこそ、先生は話の一つ〳〵に充分なる情緒をお持ちにならなければこれが實現しませぬ。

多分、「あの花子可愛想ね。氣の毒で堪らない」で、「斯う云ふ場合には氣の毒になるのが普通の人情、あたり前ですわ」と云ふのは、可愛想だ、と云ふ氣持が一ぱいになつて先生が話していらつしやる、ここによつたら先生話して居る中に涙が出て來る、その子供が見て、「やあ涙が出てらあ、先生泣いてらあ」と云ふのじやなくて、あの可愛想で眼が潤んで來ると云ふ所に行き度い。「惡い奴ね、弱い者をいぢめて」先生も話して居乍ら義憤に燃えて來て、本當に悔しい、と云ふ、斯う云ふ氣持で話していらつしやると、子供も本當に「うゝ」と云つて聽いて居る。うつかりその時ですね、「斯う云ふ時には誰だつて義憤に燃えますね」なんて云つたら潰して了ふ。先生は本當の情緒が出て居なければいけない。幼稚園で氣の拔け

た話を聽いて育つ子の不仕合せを思ふと氣の毒に思ふ、氣の毒に思ふ……と云ふと觀念になるから斯う(身振にて)やつておきます。

子供の方では斯う話を聽いて本當に可愛想だと思ひかけて來るんですけれども、先生はその話を就職以來、三百六十五回やつて、もう何の悲しみもなくなつて……子供の方は顏を見合して「先生はちつとも悲しくないぜ、どうも變だ變だ」と思ふ中はいゝんですが、折角やつて居る人が悲しくないんです。こつちも聽いてる中に段々麻痺しませうし、段々すれつからしになりませう。幼稚園でお話は斯う云ふ所に考へますと云ふとかなり、眞劍なものでなくちやならぬ。だから旨い話と云ふ樣な事をうつかり言へませぬ。旨い話、技巧上の旨い話、こんな事は出來ませぬのです。大きな子供を摑へて行く時には又別な問題になつて行きますが、幼兒に素直に受取らせる場合は技巧なんかで行くより、もう少し進んだものであります。斯う云ひますと云ふと、話をする爲に先生は義憤に燃えたり、悲しみで悶えだり、こつちの部屋では先生が言ひかけて泣いて居たり、こつちの部屋では怒つて居る大變な事になつて了ふ。まあさう云つておきますが、一體が幼兒の世界に於ける情緒の生活が淡いものでありますから、そんなに先生が、青年に向つて失戀の話をする樣な濃厚な感情を動かさなくたつていゝのであります。この狸のお嫁さんが、この王樣の所に行く事になつたけれども止めたんです。なんて云ふ……子供はそれ程に思ひませぬ。「矢ッ張、尻尾を動かしたの」と云ふ位の話で行くんですから、その淡さは淡さでいいんです。情緒と云ふから濃厚にいつて居るんじやない。然も先生は情緒を起して、兎に角それが素直に向ふに受け取られて行き度い、と斯う思ふのであります。

この抽象がさう云ふ樣に受取られて行きますからこそ、本當に聽けて來る。「私は聽いてる。餘程、鼓膜は目下、振動して居るけれども情緒は動かぬ」と云ふのは物理的に聞いて居る。これとこれとは實は一つであります。こつちは態度、心の

中で動いて居ませう。

此處で線が又一つ這入りまして、變つた問題になりますが、聽いては居るんですが、……聽いては居るんですが、何と云ふのでせうね。實は此處の所が奇妙な問題でありまして、

四　動的聽き方（或は活動的聽き方）

動的聽き方、或は活動的聽き方とでも言ひませうか。聽く、と云ふ言葉の本來は受動的受取り方です。所が幼稚園でお話を子供にします時のあの談話と云ふものゝ持つて居りますものは、受動的にきくばかりじやなくて、發動的にきく、精神活動を促し度いと云ふのが動の一つのあらはれとなつて居るのであります。あの話をきくのに話の種類に依て……種類と云ふのは話の內容じやないが話と云ふものゝ性質によつて色々のきゝ方があります。例へば軍隊なんかでちやんと命令をきいて居る時なんか「ハッ」ときいて居りやあいゝ。「何か斯うして〳〵」「ハイハイハイ」ときいて居ればいゝ。或は、叱られて居る時なんかは默つてきいて居りやあいゝ。頭を下げてきいて居る。「ハイ、恐れ入りました」もう一度惡い事をしたいと思ひます、なんて言つちやあいけない。言つて居る方も「分つたら後でこつくり考へて御覽」と云ふだけで下つて了ふ。あまりうるさい小言なんかは「ハイ〳〵〳〵〳〵」と言つておけばいゝ。斯う云ふすべらかしきゝ方と云ふのがあります。所が幼稚園に於ける、先生方が子供にお話になるのはさうじやないんでせう。「皆さん、雨が降つたらば傘をおさしなさいよ」「ハイ」そんなのならばあの情味たつぷりで話していらつしやるあの話じやないでせう。その用件を傳へるんでもなし、此方の氣持を向ふに傳へるだけでいんじやない。話、と云ふのを取扱つて居る時には、きく、と云ふ受動的態度でもありますしその實……何と言つたらいゝんでせう、きいて居るんだか言つて居るんだか分らぬ樣な態度にならなくちやいけない。「先生の仰言る事一々分つて居ります。決して居睡りはして居りませぬ。一言漏さずきいて居ります。

肝に銘じて居ります。肝よりも、もつと色々な物に銘じて居ります」と言つてきいて居る丈じやないんでせう。「昔々或處にね」と斯う仰言ると「或處にどうかなつた」と思ふ。あの話をきいて居る時には、先生が云はれて、どうかなるのみならず自分で……何方が先だか分らない。「狸も出て來たの、狐も出て來るに相違ない」なんと言つて居る。「それから何うなるんでございますか。それだけでございますか、もうおしまひでございますか」と云ふ話ではない。先生が云ふのと後先して自分が言つて居る如くきいて居る。之を心理上の言葉で、想像力を働かせつゝきいてゐる、と云ふとあなた方の樣な學者にはお分りになります。單に受動して居る丈でなく、想像力を働かせつゝきいてゐる、私は何時でも妙な事を思ふのでありますが、本當に子供にうまい話が出來てその途中で、先生が用事が出來、三分の二位で先生が行つて了つたら殘つた子供は何うなるのがいゝでせう。「先生が來なくちや話が始まらない。兎に角その間默つて居よう」、「これから何うなるか先生が來なくちや後が續かない」と云つて煙草でものんで……まあ幼稚園の子供じやあ煙草ものまないでせうが、そんな事をやつて居る。さう云ふ事があります。吾々呼び集められて委員會の相談なんかの時に「皆樣のお力を借りなければならぬ。斯う〳〵〳〵」と云ふ段取りで「一寸失禮します」と行つて了ふ。此方からさう云ふ事を進んで考へて行くと云ふ事は嫌ですから願はくは其處から行つて了ひ度いが、さう云ふ譯にも行かず、出て來たら話が始まるだらう。それ迄は他の話をして居ようと云ふ態度で、それこそ煙草でも吸つて居る。

所が、先生が面白い話をしていらつしてそれが途中で切れたら、その切れた事も忘れて、先生が居ない事も忘れて「それから斯うなるんだよ」「先生が居なくたつて斯うなるんだよ」「僕はあの話と一緒に動いて居たんだよ。しまひ迄は行かないが暫くの惰性位は僕殘つて居るよ」「いや僕は斯う思ふよ」と云つて、積極的態度で話し出す位に動的性質のきゝ方をして居る。斯う云ふ態度と云ふものは詰り人生に於ける熱です。「あゝさうで御座いますか、へー」それだつて宜しう御座います

が「承知しました。それだけはちやんと致しますが、それ以下も致しませぬがそれ以上は決して致しませぬ」なんて云ふのでは人生が渡れない。「宜しう御座います。私の言ひ付けられた事はこゝ迄ですけれどもさう聞いて見れば斯うします」と云ふと「あゝ……」と嬉しく運ぶのであります。所謂動的にそこに來た斯う云ふ話を斯う云ふ效果を狙つていらつしやるならば斯う云ふ風になる樣な話方をしなくちやなりますまい。斯う云ふ風にならうと思ふけれどもなれない話方があります。「皆さん、これからお話を致します。お聞きなさい。昔々或處に……しやあ〳〵〳〵〳〵これでおしまひ」。と云ふ事になると、子供はもう追かけて行く丈で大變である。それから先に興味なんか起りませぬ。或は又、先生が子供の氣持より旨すぎて、子供が思つて居る、子供が動いて來る氣持よりも餘り旨い技術を使はれますと、子供の方では自分の心の働き出す餘地がない。思ふと直ぐバァッと言つちまふ。餘り利口な人の側に居ると馬鹿になると云ふ事がありますが、何か氣が付かない前にやつて了ふから、貧すれば貪する、と同じで、出なくなつて了ふ。そこでこの話から行きますとあの幼稚園のお話は、ステージのお話と違ひまして何處かに一寸まづいところがあるのがいゝ。「それは得意だ」なんて皆さん仰言つちや困りますが、非常に上手いんですけれども……所謂稚拙と云つた樣な事です。本拙じやいけない。大人拙、大拙でも尙いけないが子供つぽい拙さです。そこで、餘り熟練したお話をタッ〳〵〳〵〳〵こやつて、子供が陶然としてきくのはステージの祕訣でありますが差向ひで「それからね」等と言つて居る時「これ〳〵〳〵〳〵」と言つて「分つたか」と云ふよりも「何ですか……さあ、お分りでせう」と云ふ方がよく分る事がある。言つて了へばいゝが言はないで「まあ、なんて言ひませう」なんて言つて居ると、きいて居る方で「それは斯う〳〵だらう」と乘つて來て呉れる。ずるいが、さう云ふ手がある。だから、先生話を餘りうまくやらないで稚拙の位置、テクニックとして話の間に隙間をくれると云ふ事をする。面白いと直ぐ子供の眼が輝いて來る。或ところに話が來た時に先生、一寸つかへる。そのつかへるんだつて上手につかへなく

ちやいけませぬ。ポカツと止めて、何處が續きであるかと云ふのではいけませぬ。そこでうつかりと「あれなんですよ。野原で誰も居ないでせう、小さい狐が大勢に追かけられて……」なんて云つて待つて居る。さつさとやつて了ふと困つた、と云ふ話が生きて來ない。「隨分困つて彼方へ逃げ此方へ逃げ‥　」と先生がやつて居ると、子供達がその間に「此處に行けばいゝのに、あゝ助けてやり度い」さう考へる。中には其時「大丈夫だ、逃げるよ〳〵確に逃げるよ、利口なんだもの」と云ふ、將來男伊達にでもなりさうな子供も居る。さう云ふ氣持。女の子なんかは助けてやりたくてジリ〳〵しませう。「何うしませう、あなた」とやつて居る。そこを見すまして置いて「あなたの既に考へたる如く」なんて言つたのじや手づまの手が出て了ひますから知らん顔をしてずん〳〵やつて行くのであります。このポーズと云ふのが上手に使へるといゝ。所が「私、今日話をし乍らつかへたの、とんでもない所でつかへたの、昔々‥」之じやあ子供が出さうにも出せない。イマジネーションの動きに方向づけがしてないから仕方がない。イマジネーションが行くところ迄は先生が持つて行く技術がある。言ひ盡して〳〵〳〵と云ふのは、話術の極致です。默つて居れば皆私が言つてあげるから、と云ふのは、此意味から行けばいかんのであります。斯う云ふ事の效果が段々現はれて來たとしますと、お話に依て、子供は、心の充分働く人間になつて來るだらうと思ふのであります。あの、文學をよく讀んで居ります人は大層心が色々と働きます。學術の理を通した本なんか讀みつけますと、人からきかなければ眞實はないと云ふ事になります。本を間違つて讀む人は、眞實は他所にあつて、寄りかゝつた氣持になりますが文學を讀むとその中からイマジネーションが我々をリードして呉れるから、我々もさう云ふ風になつて來まして、子供の心の本當の動きを造つて行く、斯う思ふのであります。こゝで又切ります。

第五としまして

これは大した事ではありませぬが、話によりまして斯う云ふ事を色々やつて居ります中に斯う云ふ事が出て來る。第二次的效果と云つてもいゝでせうが少し言葉が强過ぎますが……寛容と云つた樣な事が養はれる。寛容、と云ふとまあ少し言葉が大き過ぎます、强過ぎますが……。この寛容と言ひますのは何う云ふ意味か知りませぬが私の符牒で、これに私二つの意味を持たして居るのであります。一つは少し大きなのですが、人生には隨分色々な場面もあり、種類もあり、方面もあり、フェイスもあると云ふ樣な心持が養はれる。言ひ換へれば我々が現實の生活に於て、色々な人に會ひ色々な場面を經過して來ますと、我々の心にある寛容性が養はれる。言ひ換へれば自分を本體としたる一切の判定斷定と云つた樣な事から、まあ色々な事もあるもんだと云ふ事から一種の寛容精神が起つて來るのは、世の中で經驗を積んで居る人に屢〻見るところであります。之と似たるものが、お話を色々聞いて居ります中に起つて來るのである。そこで、その寛容的精神と言ひますか……寛容的態度と云ふ樣なものを養つて行きます爲にはお話は色々とヴラエティー……種類の多い方がいいのであります。若しも或內容的效果を徹底して行かうと云ふ事だけ思ひましたならば、效果を徹底すべき樣な事だけを澤山話して行けばいゝ事になりますし、往々さう云ふ事があります。所が私は、內容效果も大事ですけれども、あゝ云ふ文學、藝術と云ふ樣なものから特有に與へられます修身ではなく、文學藝術と云ふ樣なもの特有の效果、斯う云ふ所にあると思ふ。私は世間をあまり知りませぬが、色々な小說を讀みますので、人の心持は色々ある、と云ふ事が分る。色々芝居を見ると、馬鹿々々しいとも思ふが尤もだと思ふ事もある。それで私がどれだけ寛容な人間になつて居るか居ないかは別問題であるが、目下しつゝある。そこで、色々ヴラエティーのある話を子供に聞かせて行けば——此方から言へば弱い樣であるけれども——文學のお話でも、此方を狙ひ度いと思ふのであります。

皆さんに敢へて問ひます。皆さんは幼兒を保育して受持の先生となり乍ら、自己と云ふものを子供に及ぼして、如何に

考へていらつしやいませうか。或人は、自己を本體にして、もつと自己的に、子供を凡て私の樣な人間にしようとお考へになつていらつしやる方もあるかも知れませぬ。或は、自分の樣な駄目な者が擔任となつて皆にさう云ふ感化を與へてはいけないと考へて居る方もあるかも知れない。それで一週間交代にして行けば色々な先生に會ふ。私は、「私」が一年間二年間一人の子供を持つて居りました時に、私と云ふものの狹さを考へました時に、何うして、子供に廣い世界を觸れさせるその手傳ひが出來るかと思ふ。其時に私の主觀をもつて訴へたならば、私の意見、私の主義、私の主張を以てやりましたならば、何時迄經つても私ですけれども世にある所のよき童話……或は日本の童話、イギリスの童話、フランスの童話、或はアナトールフランスの童話、トルストイの童話、小川未明の童話、と云ふ樣に色々な文學藝術の中から偏らない樣にと話をして行きました時に、私も亦その話を通して、廣き友を通して、眼を開けて行く事が出來ると思ひます。之は他の保育項目では出來ない、觀察なんかでさせる世には樣々あり、なんて言つても寬容にはならない。けれどもこの所謂文學の世界に盛られたる色々な世界がある。或人はキリスト教精神の盛られたる人もありませう。佛教精神の盛られたる人もありませう。或人は……とまあそんなで、寬容と云つても程度がありますから、さう無暗に變つた廣い事を持つて來なくてもいゝでせう。大人なんかならば可成り罪惡を盛られたる文學を讀みまして始めて、道德的文學許りを讀んだ人間にない效果を得られる事がある。けれども幼兒にはよくない。まあ色々取り交ぜて行く。實に寬容精神は、話に依て養はれるのであります。私は、文學を讀まない人、藝術……主として文藝の方へ行かぬ人は年と共にかたくなになつて行く事を屢々見るのであります。段々その人流になつて了つて、大きくなるに隨つて狹くなつて行く。所が文學、藝術の方に行く人は年と共に廣くなつて行く樣な教養の仕方と云ふものはあると思ふ。けれども幼稚園のところでそんな大きな效果は得られないでせうが、少し斯う云ふ事を狙ひ度い。

寛容と云ふ事のもう一つの意味は、横にヴラエティーが擴つて多種多樣になると云ふ事の他に生活……この次が實に難しい問題です。一つの實に難しい事件を一寸離れて見ると云ふのが寛容です。所謂餘裕が出て來るのです。その餘裕と云ふものが餘り激しくなりますと云ふと、之は眞實を失つて了ひます。文藝、藝術に滯む者が屢〻陷ります所の大なる弊害は、餘裕が出來て來て眞實に離れて行く事であります。之は芝居なんか餘り見て居りますと、眞實から遠ざかつて行きます。世間が皆芝居の樣で、彼處で夫婦喧嘩して居る。却々いゝ取組だ、と云ふ樣に劇的に感じて來る。小說なんか讀んで居りますと——下手に讀むと言つていゝか、下手な小說を讀むと言つていゝか——眞實性の盛られて居ない小說を讀むと斯うなる。けれども本當の文學を本當に讀んで行く人は隙間だらけの頭にはならない。又それに捲き込まれて眼も見えなくなると云ふ事にはならない。この餘裕の最もうまくいつて居るものをイギリスではユーモアと申します。ユーモアと云ふものは、一寸其所に隙間が出て來る。健全なる常識、健全なる生活と云ふ樣なものを少しづゝ具へて居るイギリス人的の常識であります。ユーモアがないと……凡ての問題を餘り向ふや此方につけますとサタヤになります。ユーモアとサタヤがある。サタヤは日本で言ひますと……何と言ひますか、皮肉とでも言ひませうか、チクリチクリと云つた樣なものです。惡口を言ふのでも、ユーモアで行くのとサタヤで行くのとあります。睨むのだつて、睨まれる程氣持のいゝ眼と、チクリと來る眼とある樣に、同じ事を言ふのでもユーモアとさうでないものとある。文學でも、ユーモア文學とサタヤ文學とあります。サタヤの方は苦い辛い澁い。何故さうなるかと云ふと、事件を、餘り向ふをキューッと見つめる皮肉です。ユーモアになりますと輕く春霞でボーッと包む。こゝに何か喧嘩がある、非常に惡い事であります。それをユーモアに置き換へる。それが度が過ぎると不眞面目になる。實に兼合が難しい。

まあ、こゝのところに私はユーモアを少し養ひ度い。ユーモアは何も、洒落を言つたり笑つたりと云ふのではない。も

のを見るに、チョッ〳〵と樂な見方をするのであります。これは自分の健康にもいゝ事です。他人が何か惡い事をして、見るに耐へられない事があるがそれをユーモアで「色々な人もあるさ」と云ふ。「あのまあ本氣に怒つて居る顏のおかしい事」と言つちやあ人が惡くなつて了ふが、おかしい事じやないんですけれども、此方もポーッとして了はない餘裕です。斯う云つた氣持は隨分兼合です。この、文學、藝術の人生に及ぼす力で、お話と云ふものも自然に其所のこころを狙ふべきではないかと思ふ。

あの恐い話を、先生が腹の中に情緒をいつぱい滿して置き乍ら、先生はニコヤカな顏で話して居る。事件そのものに直面しないで眺めて居る形、眺めて居る所に上品さが傳へられるかと思ふのであります。之はまあ可成り難しい問題ですが斯う云ふ風に考へる。

そこで、談話の話が大分長くなりましたからこれでお終ひにしますが、私のお話をもう一度說明します。

談話の效果のねらひどころの、內容效果にある事はもとより保育項目として大事であります。大事でありますがこれはもう改めて申上げる迄もない、誰方も御承知の事であるから、此處でそこに力點を置きませんでした。この內容效果は、大事ではありますが之はお話と云ふ特有なる保育項目に就てそれに限られて考へられる事でありませうか、之は一體、子供を敎育しようと云ふ全體の效果のねらひどころとして、常に何事に就ても考へられて居る事じやないかと思ふ。お話と云ふあの特有なるものに就ては、寧ろお話の持つ形式的な特質の方からの效果を狙ふ可きであつて、斯う云ふ問題がそこで出て來る、と斯う云ふ考で申上げたのであります。もつと突込んで考へますならば、內容效果で限つて了ふ、こゝでお終ひにして了ふと此方が留守になる傾向がある。お話をして居て、お話の目的を考へてお話をして居ないと言つた樣なおかしな事になつて來る。丁度、小說家が、小說を書くと言ひ乍ら、出來た物を見ると論文であつたりする樣な、馬鹿々々

しい事に、幼稚園の話がなりはしますまいか。

こゝの問題から、寧ろ後の方に力點を置いて申上げたのであります。今日はこれで終ります。

(二) 遊戯

これは、保育項目の效果のねらひどころ、と云ふのゝ中の第二、であります。

保育項目の、談話と云ふ方面に就きましては、昨日申上げた樣な事を狙ふと致しまして、あの遊戯と云ふ言葉は、何時も話に出ます樣な工合に、自由遊び、それから所謂律動遊戯とか、表情遊戯とかと云ふ樣な多少特別に考案されました遊戯、この二つを含んで居る樣でありますが、自由遊びと云ふ方は、これは別に先生の力を以て始めて行はれて來るものではないのでありますから、幼兒生活そのものを問題として見て置いていゝ事かと思ふ。その自由遊びの中に、教育的效果が、如何に潤澤に豐富に生き〳〵として存在して居るものであるか、と云ふ事は、改めて申す迄もないのでありますが、隨て自由遊びを、幼稚園に於て尊重します時に、大きな教育的效果が、そこに現はれて來ます事も、言ふ迄もないのでありますが、これもさう云ふ事を狙つて自由遊びをさせると云ふよりも、子供が自然にします自由遊びそのものゝ中に、自らさう云ふ效果が起つて來ると云ふだけの事でありますから、保育項目の效果のねらひどころ、と云ふ樣な問題からは、少し別にして置いた方が分りいゝかと思ふのであります。

そこで、さう云ふ意味で自由遊びを、あの保育項目の、遊戯と云ふ言葉から除く——要らぬ問題だからとか、詰らぬ問題だからと云ふのじやないのでありまして、あまりに子供の生活にピッタリ自然に則して居るものでありますから、先生

と云ふ要素が、あの遊戯を幼稚園に入れて來る事に於てそんなに著しくないのでありますから除きまして、さうすると私、こゝに……わざと括弧をつけて置きましたが、括弧付きの遊戯が、保育項目の實際の問題として殘るのであります。そこでこの遊戯は、或は舞踊とか、或は劇的な……ドラマティックな表現とか、色々と種類があるのでありまして、「お話」が、その內容效果を異にするに拘らず凡て、お話と云ふものゝ藝術的效果は、昨日申上げた通りである樣な簡單な取扱ひは、「遊戯」には一寸難しいのであります。卽ち舞踊の場合に於きましては、舞踊獨特の問題があります。劇的な表現の場合に於きましては、そこに又獨特の問題がありませうし、體操的性質を主にして居る場合には、そこに又問題がある。卽ち、芝居と云ふものと踊りと云ふものと體操と云ふものが、同じ身體を動かして或表現をやつて居る事でありますけれども、まるつきり文化的に、違つた特質を持つてやつて居ります樣な譯であるのであります。

そこでこの、遊戯の效果のねらひどころ、と云ふものを論じて行く事は、却々簡單に行かぬのでありますが、私はまあ斯う云ふ所で、今回のお話をつけて行き度いと思ひますのは、その遊戯が、舞踊であつても、劇的表現であつても、體操的であつても、幼稚園の子供がやつて居りますと云ふ程度に於きましては、此方で……先生の方で考へます程、それ等がそんなに强い特色を以て區別されない部分が澤山あるだらう。もう一度、言ひますが、如何に幼稚園の子供と雖も、舞踊的な遊戯をやつて居ります時と、劇的表現的の遊戯をやつて居ります時と、體操的遊戯をやつて居ります時とは、それ〴〵違ふのであります。違ふのでありますけれども、然しこれが非常に完成したる文化の形式に於きましては、全く違つた特質をもつてそれが行はれるのでありますが、幼稚園の子供の場合に於きましては、違つては居りますけれども、その差別の點がそんなに完成して居りませぬから……それ程充分に差別される許りに出來上つて居りませぬから、つまりまあ程度が低いから、そこで、そのどれにも共通な、と云ふ點が相當に認められて來るのではないか、とまあ斯う見度いのであり

ます。そのどれにも共通なる樣に見ていゝものが相當にある。そこの所を捉へて狙ひ所を考へて置く、と云ふ事で、このお話は止めて置き度いのであります。

そこでさう云ふ風に色々の種類に依て、それぞれ效果の違ひます遊戯を、さう云ふ意味で一括して見ます。私は皆樣に充分御研究を願ひ度いと思ひます點に於ては、從來の如く幼稚園遊戯と云ふ一つの塊りで、何でも論じて行く行き方は段段に變つて來なければならぬのでありまして、詳しく研究しますには、舞踊性の遊戯と、劇的表現性の遊戯と、體操性の遊戯に就ては、全く一つ〳〵研究をしてはつきり之を取扱はなければならぬので、これをお奬めしたいのであります。然し今回は其所迄論を進めませぬで、その全體を一緒に取扱つて了ふ事は出來ませぬが、その差別が、幼稚園の子供と云ふ點に於ては、もう少しポーツとして、共通的に取扱つて居るもの、斯う云ふものを見度いと思ふのであります。

尙もう一つ他の方から、保育項目としての遊戯を考へるに就ての問題を申します。昨日考へました「お話」と云ふ樣な場合は、これは先生の方が、或一つの童話を子供に語つて行く、と云ふ樣な場合に於ては、相手が幼稚園の子供であらうと、相手が立派な大人であらうと、その言葉の使ひ方を易しくするとか、話を短く切り上げると云ふ樣な、極くテクニックに屬す問題は、相手に依て違ひますけれども、その話そのものに就ては、そんなに變らないのであります。幼稚園の子供に話すのだからと云つて、その話として別にどうも、いゝ加減に、と云ふ譯にも行かぬのであります。桃太郎の話を立派な文學者に……例へば西洋の、外國の、立派な文學者が、日本に桃太郎と云ふ話があるさうだがそれをきかして呉れ、と云ふ時にします桃太郎の話も、幼稚園の子供にします桃太郎の話も、別に變つたものじやないのであります。詰り、其話を幼兒の方で何う云ふ風に取つて行くか、と云ふ事はこれはその子供々々で色々な取り方をするかも知れませぬが、お話と云ふものをその幼稚園の中へ持つて來る、その幼稚園の話と云ふものに就ては、別に變らないのであります。之はもう一つ說明し

なければ分らぬかも知れませぬ。世間ではよく「幼稚園話」と云ふ言葉がありますし、幼稚園向きのお話と云ふ言葉がありますから、それと、私の言つて居る事との關係も言つて置かなければならぬが、勿論、青年向きの話、少年向きの話、幼稚園向きの話と云ふ事が、その內容とか、言葉の內意とか、短かさ長さ、仕組の單純な複雜さ、と云ふ事に於て、年齡向きに違つた標準で、選擇せられなければならぬ事は元よりであります。然しどんな、內容の簡單な、言葉の易しい話であるにしましても、それは矢つ張り、その大人が子供にきかして居ります時に於ては、立派な一つの文學でありまして、易しくても何でも文學である。その文學としての、子供に及ぼします所の效果と云ふものは、その文學としての一ぱいの效果を、其所に出して行くものなのであります。內容に就ては、小さい子供に難しい事、複雜な事は語りませぬけれども、そのお話と云ふものゝ本質が文學である、と云ふその事から申しますと、昨日申しました形式、效果に於ては、幼稚園の子供にする話と云ふものは他愛ないものである、とかいゝ加減なものである、とか云ふ樣な意味合は、少しも出て來ないのであります。所が之と比べまして、遊戲の方は、之は同じ遊戲を、幼稚園へ持つて來た時には、色々そこに變つた事が起つて來ざるを得ないのであります。こゝがこの問題の「お話」と違ふ所で、「お話」の方は、先生がその文學を話すのでありますから、勿論易しい簡單な話を、易しく簡單に話さなければなりませぬが、その先生は、その易しい話の一ぱいの話方をして居る。所が「遊戲」の方は、子供がそれを眺めて居るのじやなく、きいて居るのじやなく、子供がそれをやるのであります。やるのでありますから、先生が持つて來ましたその完全なる形態と、子供がやるに就て此方から要求します形態とは、餘程、違つて來るのであります。例へば鳩ポッポと云ふ遊戲ですか……或は、餘りそれじや私が何も知らぬ樣ですから例を擧げると……鳩ポッポばかり言ふと云つて笑ふかも知れませぬから、「眠れ眠れ」ですか、最近に發表されました……例へばあれなんか、相當藝術的な……歌詞も藝術的な、リズムも藝術的なものでありますが、あれを上手に本當

にやれば、何も幼稚園向きと云ふ丈のものじやないと思ふ。皆樣の誰方でも、あれを熟達していらつしやる方がその遊戯を完全舞踊として發表なされば、立派に日比谷公會堂は滿員になると思ふ。或は藤原義江なら藤原義江が歌つた時に、曰くトスカとか、曰くカルメンとか云ふ立派なオペラを歌ふ間に、鳩ポッポを歌つたとしても、私は、藤原義江の鳩ポッポは大したものだらうと思ふ。その大したものを、先生は幼稚園へ持つて來て、先生が踊つて居る時には、大したものなんです、實に大したものであるが、皆さんには幼稚園向きだから此位で宜らう、と云ふ樣な事は出來る筈はない。乍然子供がそれをやる時に……そこです。先生が、あの舞踊に就て、先生自身として持つていらつしやる高さと、子供が表はし、又子供に要求なさる事とは全く違つて居る所じやない、大變段階が離れて居る。お話の方は、自分の一ぱいの話方を……その文學としての一ぱいの表現をして行く。さうして子供は、それをきいて居れば宜しい。遊戯の方は、子供にそれをさせる。させる、と云ふより、恐らく自然にするのでありませうが、そこで、先生が持つていらつしやる高さと、幼稚園で子供がやつてる高さとが、餘りに違つて居るのであります。その違ひと云ふものが、實に幼稚園の保育項目の「遊戯」と云ふ問題を複雜にして來るのであります。實に惱ましいものにして來るのであります。屢〻とんでもない間違を引起させて來るもとになるのであります。更に舞踊と云ふ樣な事になつて來ますと、初めの、さう云ふ文化の發達の上に於きましても現代に於て、所謂舞踊藝術と稱される樣なものは非常な發達をして居ます。實に發達をして居る。「お話」の方は文學……文學と言ひますけれども兒童文學、子供向きのお話として、今もその性質を失はずに發達して居るのでありますから、そんなにえらい發達……文化としてそんなにえらい發達もして居ないかも知れませぬ。と云ふ私の意味は、今から千年前に上手な話だと言つたものと、今日上手な話方だと云ふものと、そんなに違はないかも知れない。勿論違つて來て居りませうけれども相手が子供で終始して居るものでありますから、そんなに違つては來ないかと思ふ。舞踊の方なんかは、子供

のものと限られて居るものでないのでありますから、寧ろ大人のものとして發展して來て居るものでありますから、これは大變な發達を遂げて居る。寧ろ皆樣が幼稚園遊戯だけを習つて居つて、本當の舞踊を一つも御承知ないならば、お仕合せな事でありませう。實に世の中は天下太平でありますが、若しも子供にあてがつて居りますあの舞踊と併せて、藝術としての文化の高さに發達して居る舞踊を片方でお持ちになつて居るとしたならば、大變離れたものになつて行く、まあ大體私共――口が惡いかも知れませぬが――見て居る所では所謂舞踊の先生が、中間を程よい加減に、子供には少し高過ぎる、舞踊藝術としては一寸低い、と云ふ所で納つて居る人が多いから、事は其人として單純に濟んで行きますが、本當は大變に違つたものだと思ふのであります。そこでその所謂非常に高く發達して居ります舞踊と云ふものゝ持つて居ります效果と、幼稚園の子供に、吾々が要求し、幼稚園の子供に要求し得るあの舞踊的遊戯と云ふものとは、これは效果の狙ひ所がずうつと違つて居るのであります。

さう云ふ意味で――これは何故こんな事を長く申すかと申しますと云ふと、遊戯と云ふものゝ中には、舞踊なり、劇的表現なり、體操なり、と云ふものが這入つて居りますけれども……さう云ふ分類が出來ますけれども、さう云ふものと、文化としての高い效果と云ふものを、幼稚園に持つて來たならば、實に押し潰されて了ふ樣な事になつて了ふ、と云ふ私の心持を、そんな風に說明して置くのであります。

そこで、私のさう云ふ心持を……所謂發達したる文化としては違つたものだと云ふ事を、グーッと極端に持つて行きますと、幼稚園の子供に、やれ舞踊だの劇的表現だの體操だのと云つた事の要求が、一體出來るもんだらうか何うだらうか。或は、さう云ふ事をしなけりやならぬものであるか何うだらうか、と云ふ問題になつて來るのであります。もつとそれを皆樣にピンと來るか何うか知りませぬが、ピンと來させる積りで、斯う云ふ言ひ方を私はして見度い。幼稚園で先生

が、何んなに難しいお話を子供にきかしてお出でになつても端で見て居て、そんなに矛盾を強く感じませぬ。「あゝ、子供に分らぬだらうな」と云ふ丈で、或は「案外に分るかな」と云ふ丈で、矛盾を感じない。或は子供に向つて、製作をおさせになる時に、その製作が、先生がなさる製作、それ程緻密なものを子供がやつて居るが、片つ方、先生は自分の上手さでやつて居るのを、端で見て居つても、そんなに、子供に無理も起らぬだらうと考へる。所が、子供達が幾人か集りまして、先生の妙なるピアノにつれて、相當に微妙に、舞踊なんかをやつて居る光景を見ますと、如何にも樂しさうだと言へばそれつきり、あゝ〳〵と言つて、涙を流して見て居ればそれつきりでありますけれども、私はどうも幼稚園の中で、あの舞踊をやつて居ります時が一番、子供の不斷の生活から離れて居やしないか、と云ふ氣がするのであります。打つちやつて置きましたら、子供が彼處迄行くだらうか何うだらうか、先生が舞踊と云ふものを、こゝで、お教へにならなければ、あゝ云ふ事は、幼稚園では始まらないんじやなからうか。まあ、舞踊とは、却々大變ですな。先生が遙々東京に來て習つて、やつとこさと覺えて、然もそれも元の先生から見るとなつちや居ないかも知れませぬ。戸倉先生、いらつしやらぬから遠慮なく言ひますが、もとの先生だつて、本當の舞踊家に言はしたならば、なつちや居ないかも知れない。然し段々に受けて持つて歸る。さうして子供に、昭和九年度の踊り方、と言つてまあおやりになる。然も先生はその踊りと云ふものをやつて居ります中で、踊りそのものゝ中で、幼兒と云ふ事を離れて踊りそのものゝ中で、所謂自己に藝術的滿足を與へる爲に、段々難しくなつて來ます。凝つて來ます。その、自分で凝つて來た難しいものを幼稚園に持つて歸つて「あなた方にはさうは行かないからいゝ加減でいゝのよ」と寛大には仰言るでせうが、子供にはそれを、兎に角手本として示して行くのであります。さうして子供は、よく覺えたとか、揃つたとか揃はぬとか何とか云へば、手を叩いて義理にも踊らなければならぬ樣に煽てたり、と云ふ樣な事で行くのでありまして、その踊つて居る光景は、子供らしい世界でありませう。けれど

もごうも私は、他の保育項目よりも、一層これが子供の當り前の生活から離れて行く傾向の多いものじやないかと云ふ事を思ふのであります。

斯う長々しく言ふ迄もなかつた。實は、斯う長々しく言ふ迄もなく、一番初めに括弧をつけた、あの保育項目の遊戯の中で、自由遊びなるものと、所謂藝術的遊戯なるものと言ひました時に、既に今私が長々しく申しました事は、含まれて居る。

自由遊びの中で木の下で桃太郎の話をして居る時と、皆を集めて本格的に桃太郎の話をする時と違はない。たゞ、遊戯であると、外で子供が、こんな事(手振り)をして居りますのと、何か違つた括弧つきのものであると答へざるを得ない。これは子供の自然の生活で保育項目として吾々が取立てた遊戯なるものからずつと離れて居り、氣を付けないとグーッと離れて行くものだと云ふ事を豫想されるのではないかと思ふ。

序でにもう一つぐだりますが、保育項目をその先生方の教育目的の方だけから御覽になるならば、實に遊戯と云ふものには、非常に大きな目的が……從つて效果が現はれて參りますから、これを幼稚園でやる事に就て、何等の疑がないのであります。何と結構なものであらうかと云ふ事に就て問題はないのであります。先生の方から考へますならば……。然し私達が今回……或は昨年來取扱つて居ります樣に、保育を、先生の目的の方から見るのでなく、子供の生活の中から見て行かうとする時に、遊戯と云ふものは、一番子供らしくなくて無理なものじやないかと云ふ事に私の話が行くのであります。私は正直に言ひます。幼稚園の子供が上手に踊つたりなんかして居ります時に素人は、可愛らしい、きれいだ、無料(たゞ)で歸つていゝんですか。と言つて見物して、繪でも見る樣な積りで喜んで居る。幼稚園に來さへすれば、さう云ふものを見て行き度いと云ふ事を言ひます。先生の方でも、この遊戯を子供にさせる事に依て、先生の考案通り、手が何本動き

足が何本動き、其度に心臓が何う……、情操教育が出來たと喜んでお出でになる。けれども私は、子供の生活の方から見て行きますと云ふと、隨分子供の生活ありのまゝ、宛らから見ると、高い事をして居るなと云ふ氣持がする。私は、子供が幼稚園であまりうまく踊つて居ると、見るに耐へず、隣の室に行つて泣きます。先生が踊つて居てまづいと、隣の室に行つて、ふき出します。ですから私、先生の事を言つて居るのではない。子供の事……こんな事を諄々言ひますのは、皆さんが子供の遊戯、と云ふ言葉が、括弧つきであるのと括弧つきでないのと共通して居る爲ではないか、そこで、大變にこれを、なんなく見て居るのじやないか、殊に、大人が踊つて居る時は、大人が、文學を研究して居る時とか現實的に生活して居る時に比べて、花の下に、月の下にいゝ氣持で踊つて居る時ですから、それを子供の世界に持つて來て、子供の踊つて居る時が一番樂しさうだと定めておしまひになるが、私は、子供にあんな小難しい事をしなくても、樂しい事は澤山あると言ひ度い。ですから、遊戯と云ふものは、子供にとつて、相當に無理なものだと云ふ考へ方を一つこゝに持つて來たいのであります。中には、そんな事を一寸も考へない遊戯の先生があります。殊に、遊戯の講習なんかします先生の中に、一番初めに申しました如く、幼稚園保育項目と云ふ事を全然忘れて、一ぱいに踊つて居る。さうして、名取りの弟子を作る樣な積りでやつて行く。然し、今やつて居るこれが、幼兒の自然の生活の中へ、何う結び付いて行くだらうか。教へれば覺えます。猿だつて覺えます。覺えますが、その、教へて覺えさすのでなく、幼兒の生活へ距離の近いものとして考へた時に問題です。之は私は、相當幼稚園遊戯と云ふものは不用意には、過ぎて行けないものだと思ふ。

さうすると皆さんは口を揃へて仰言る。「だから私は、東京で習つた程上手くはやれぬ」と仰言るならば、自ら壞れた樣なものであります。そんな……大井川で半分流れた樣な、いびつな意味で崩れたんじやいかぬ。その遊戯と云ふものが……幼兒の生活の中にぴつたり合ふ樣な遊戯が、何うだらう、と云ふ事が實に難しい。斯う云ふ事を本當に誰か作りまして——

私は實は、其方の遊戯ならば一派をなして居る程上手いが――それで講習したならば、講習員が集らない。一週間、幼兒用の手振り遊びとかブラ〳〵遊びとか云ふ樣な事ばかり講習して居ましたならば、それを味はつてくれる講習員は、頗る涙ぐましい。戸倉先生には、私非常に相談してお願ひした。どんなに皆が「なんだこれは‥ 湯豆腐ダンス、冷奴ダンス、實に味もそつけもないものだ」と言つても構ひませぬ。寧ろそこをお願ひして、先生も色々研究して居て下さるが、それだつてまあ人前で「斯う云ふ遊戯をやりませう。其次に何々」と名前をつけて‥‥沖のかもめとか色々題をつけて、これからやる稽古する、と云ふならばどうも、水の中で豆腐が泳いで居る樣な譯にも行きますまい。そこで何うしても難しくなつて來る傾向が非常に多いのです。そこでその難しい、うまいのを覺えてお歸りになりまして、ステージを作つて、先生が子供の前で、踊つて〳〵踊り拔いて見せて下さるだけならば、問題はない。どんなに上手いのをやつても結構です。けれども‥‥聲を落して申上げます。あなたの爲に教へて居るんだ、だから皆さん位の踊り方でも事が濟むけれども、皆に見せる、と云ふ事でやつたならば幼兒も「どうも菊五郎の方が上手いね。花柳の方が上手いね」と言つて了ふだらうと思ふ。先生の方は、そこの所をうまい工合に「これは幼稚園遊戯だから‥‥ 東京は東京で本當に踊つて來たが、家の幼稚園に歸ればこんなに‥‥」と曖昧にして居るのであります。「幼稚園の先生が踊つて見せてばかり居る人があるもんか」と仰言る方もあるかも知れませぬが、お話は子供の前で、語つてきかせてお出でになる。只今文樂が歌舞伎座にかゝつて語つて居るけれども、あれは節をつけて語るもので、皆樣が昔々とお話しになるお話と、實は同じ藝術であります。そこで皆樣何もそんなに節なんか、おつけにならないでせうが、素語りとして立派な藝術である。さうして、大勢の子供がきいて居る。其處へ、子供達の親が來たつて、村の衆が集つたつて、別に仕樣がないじやありませぬか。「今日は大人が來たから本格的に言ひます」なんて云ふ事を言ひ出す譯じやない。あれはあれです。子供に話方を教へて居るのぢやない、話してきかせて

いらつしやる。それと同じに、遊戯と云ふものも、踊つて見せるものであるならば問題じやない。一ぱいに難しい、一ぱいに上手い踊りを見せて居ればいゝ。そこの所が大變に違ひます。さう云ふ意味からしまして、幼稚園の遊戯と云ふものが、舞踊とか、劇的表現とか、體操とか云ふ、文化的本質的問題として取扱はれる部分を私は避けて、全體に通じての子供の生活へくつ付いて行く所だけで、この遊戯の效果のねらひどころを定めて見度い、斯う思ふのであります。

何うも私は段々年を取りますと、自分の言つて居る事が娘達に通ずるか何うか心配でありますから、もう一度申します。

どうも遊戯と云ふものは、子供の生活から離れる程、難しく高く藝術的に、それ自體としてなり易いが、幼稚園遊は幼稚園遊戯らしく易しくしなければならぬと斯う言つて居る論、之は正しい幼稚園遊戯を、出來るだけ簡單な單純な易しいものにして子供に多くを要求しないと云ふ事は、これは幼稚園改良案、幼稚園遊戯選擇標準として大事な事であると豫て申して居る如く今日もその考は勿論違ひませぬけれども、こゝに私が今度言はうとして居ります事は、そこじやない。何う易しくしたつて、相當に、私は先生が考案してお教へになる遊びと云ふ事になつて來ると、子供の自然生活から、相當距離の離れたものになるを免れないと思ふ。どんな易しいのをなすつた所で、親達が來て感涙を催して言ひます。「よくまあ覺えたもので御座んす。よくまあお仕込みになつたもので御座んす。」其時、皆さんが「いゝえ、特に覺える事がない程、子供のものなんです」と言へる程のものが、出來るか出來ないか。出來度いと思ふが難しいと思ふ。そこで、どうも幼稚園の遊戯は、相當に子供の生活から距離のあるもので御座いまして、どんな所を狙ふかと云ふと、

一　體育效果

昨日の內容效果の方から先づ擧げまして、それは、そんなにこゝで改めて言ふ迄もないと云つたその意味から言ふならば體育效果と云ふものはありませう。どんな遊戯でも無理に、……心臟が破裂したり骨が曲つたりする樣な事をすれば別

ですけれども、所謂子供が樂しく動く樣な體育效果、少くもお腹が空くだらうと思ふ。

これは非常に大事で、遊戯共通に體育と云ふ事は言ふ迄もない。實に問題じやない。だからこれはこれで置いておきます。張出し大關の樣なものです。そこで第二になりまして、

二　動く興味

淡く〳〵效果を狙つて行くならば、こゝに、動く興味とでも云ふものを置き度い位に思ふ。動く、と云ふ事は何でもない事の樣ですけれども、動く、と云ふ事は生きて居る者にとりましては、色々な意義を持つて居るものであります。その、動く事が出來る…お話をきいて居る時でも、子供がフラ〳〵動いて居る樣に見えるが、動く事を本體として居るのじやなく、大體に於て、じつと座らせられて居るのであります。物を作る時には、手等を動かすけれども、之も身體全體が動くものではない。或は吾々が製作に於て要求する如く、力が這入る。製作と云へば足を踏みしめなければ出來ませぬから力を入れても、動く要素が多くなつて居るのじやない。そこで動くと云ふ、生命の生きて居る、と云ふ事の大きな要素であるその興味は、遊戯の效果のねらひどころであります。然も動くと云ふ事は、單に何處かゞ動いて居ると云ふ事じやない。その人間が所謂生命…生活的に動くと云ふ時には、全體が所謂ハーモニアスムーヴメント、調和がとれたと云ふ…調和と云ふと意味が强過ぎるが、調和が出來て運動が出來ると云ふ事が、遊戯の特質であります。その調和のとれて運動をする事に依て運動の方面が實に、生きると云ふ…その生命活動と言ひますか…所謂一番下で潑溂として生きて行くと云ふ樣な、さう云ふ效果を與へ得るのであります。健康、と云ふ言葉の中にそれが這入つてもいゝんですが、その體育健康と云ふ方は、主として生理的方面だけを取つて居る。所が、生きて居る、と云ふ事は生理的問題じやなく、實に全體が動いて居りますけれども、ぐはぐであつたりしては、本當に生きて居る體驗は味はゝれないのでありまして、全體が調

和のされて生きて居るこ云ふ感じを、遊戯の中で經驗さしたいこ思ふ。之が一つのねらひごころであるこ思ひます。これをば何こ云ふ……動くこ云ふ言葉じやあまりそれが出ませぬし、調和性運動こ云ふこ、大變調和性こ云ふ言葉に纏りがつくし適當な言葉がなくて困つて居ります。講義が濟みますこ云ふこ皆さんは色々な方法を……講義の後の瞬間こ云ふものは、色々な現象が起る。或方はそのまゝ急に前に倒れておしまひになります、前屈運動。さうかこ思ひますこ或方は後へおのしになる方もあるかも知れませぬ。或は、少し立つてお歩きになる方があるかも知れませぬ。兎に角そこで或運動を開始なさいまして、あゝ矢つ張り生きて居つた、こお思ひになるのであります。生きて居つたこ思ふこ同時に、そこに生活力が恢復されて來るのであります。まあ御遠慮なく、全體的、調和的運動をなすつて恢復される事を望みますが、其時に調和こ云ふ言葉を使ふこ、大變事が難しくなつて來る。そこで、不調和でないかたよらない全體の運動こ云ふものに依て、全體の生命活動こ云ふものを、促して行くものであるこ云ふ事でありまして、これをまあ私は仕方がありませぬから、「健全なる、いき〳〵しさ」こ言ひます。健全なる、こ云ふこ大變難しいが、英語で云へば、ホールサムリビリネス、こ云ふ言葉が恐らく當てはまりませう。子供の生活の中に、健全なるいき〳〵しさこ云ふものが、遊戯に依て養はれて行くこ狙ひ度い。生き〳〵した所のない子供があります。それから生き〳〵しては居るけれども、健全性のない片寄つたいらいらした樣な者があつたりしますが、健全なる、生き〳〵した、のですから相當に元氣……こ云つても無茶なものでなく、相當おつこりして居る。皆さん御自身でも御經驗こ思ふ。本當に充分にハーモニアスな運動をした後はいゝ氣持です。さうしてそれが、元氣だつて斯う(手振り)やり度くない、靜かな氣持……皆さんさう云ふ御經驗ないでせうか。私の樣にダンスの上手な者なんかは、踊つて踊つて踊るこ、ダンスこ云ふものは相當にハーモニアスな力……バランスで、一人なら違つたら違つても動くが、二人なら動かない。さうして滑るが如く踊つた後こ云ふものは、疲れて休むのじやなく、い

ら〳〵した氣持がなくなる。さうして沈んで了ふのではない。踊つて踊つて、へと〳〵に疲れた後と云ふものは、靜かな然も生命が滿ちて來る樣なものがある。さう云ふ意味合から、あの幼稚園遊戯と云ふものは、情操教育に行くずうつと前に、健全なる生々しさ、と云ふものを養はうとするのであります。これがありますから、或は無邪氣にもなりませう、朗らかにもなりませう、素直にもなりませう、快活にもなりませう。皆これから出て來る問題であります。

第三には、

三　みんなといつしよ

皆一緒。幼稚園遊戯と云ふものは、こゝの所、色々問題もありませうけれども……皆一緒に踊つて居るといふところが、幼稚園遊戯の一つの特色ではないかと思ふ。一體、人類の踊りと云ふものは、これは必ずさうだと云ふ事を學術的に定める事は却々難しい事です。けれども踊りと云ふものは、踊りそのものとして出來て來た、と云ふよりも、皆と一緒に居ると云ふ事からワァーツと來たものだと云ふ、斯う云ふ説明もつくのであります。皆と一緒に居る、と云ふのは、何うしたらいゝでせう。一人で居るならば、何うして居てもいゝ。皆と一緒に居ると云ふ時には、何うしたらいゝでせうか。皆と一緒に居る、と云ふ意味を發揮させる爲に、皆がそれ〴〵違つたポーズを持つて居りましたならばこれは一緒に居ると云ふ氣持を伴はない。反對に、皆と居る以上は、皆と一緒に揃つて直立不動の樣に竝んで居ると云ふのは、……整列して居る時に、皆と一緒に居ると云ふ氣持はあるものじやない。「氣を付け」と言つてチツとやつて居る。皆と一緒に居るのだとは考へますなれども、皆と一緒に居ると云ふ事が、生活的にいき〳〵と體驗されて居ない。そこで、皆と一緒に居ると云ふ時には、もう一つ、話をします。皆と一緒に居て默つて居ると云ふのは變で、一緒に居るからしやべり出す。「何うもお前達は、寄ると直ぐしやべり出す」と云ふが、これは當り前で、寄り集まれば、寄り集まつたと云ふ事を實現して行く爲に

物を言ひ出す。物を言ひ出すと云ふのは、色々用もありませうし、議論もあるが、大體に於て互が同じ事を言ふ。「何うもお暑う御座います」と言へば「お暑う御座います」と片方も言ふ。それを併せて誰かゞ「皆々暑いな」と言へば、如何にも皆と一緒に居る氣持が出て來る。言葉を通じて同じ事をするが、もう一つは、同じ動作をするのであります。たゞ並んで歩いて居るだけでも、皆が歩く時に自分も歩くと云ふのなら皆が一緒に居ると云ふ感じが出るが、皆が複雜に、皆が斯う(手振り)やつて居る時には吾もする、皆と同じ事をしなけりやならぬと考へたら窮屈です。中には勝氣な人なんかは、人が先にやつたからやらないとか、先に手を出さなければ承知出來ないと云ふ人があります。所が一緒に揃つて、盆踊りなら盆踊りで踊つて居れば、皆と同じ事を……私はもつと本當だつたら、何んな手の込んだ踊りが出來るかも知れぬが、此處は山の麓の月の晩で、村の娘が踊つて居るから、私は村の娘に合せて踊つて居る。さうすれば、皆と一緒に居る、と云ふ感じが味へる。ですから、一緒に居る、と云ふ體驗を充分に感ずるものが、踊りと云ふものから出來たと云ふ事も考へられるのであります。

その、皆と一緒に居る爲、……踊りそのものゝ爲に、踊りが出來たのじやない。皆と一緒に居るので揃へませう、と云ふのが踊りでありますが、それを一つ抜き出して、踊りと云ふものが出來て來ると思ふ。私は、舞臺で一人で踊つて居る人を見ると、大變な事だと思ふ。一人で踊つて居る。踊り踊るなら皆と踊れ、じやなくて、一人で踊る。一人で踊つて居て、さうして皆に見せて居る。その踊りは、大變に研究されたもので、見て居る者は恍惚として、藝術的美に醉はされて了ふ。この、一つ抜き出して拵へたものを、更に分解して、こゝの手つきが斯うだから美である、或はこゝのところで、心臟が斯うなるから天を仰ぎ、且つ息が出來る、と云つた樣な事になるのです。乍然私は、そこ迄幼稚園の問題を持つて行く前に、その一人踊ると云ふ事じやなく、皆と一緒に、と云ふのが生活的遊び、中には子供だつて、一人で踊つて居る

者がある。丁度、睡蓮の側にニンフが一人下りて踊つて居るこ云ふ神話の樣な形で、一人踊りも發生する事がありませうけれども「皆集つて。揃つたら歌ひませう。揃つたら手を合せませう」こ云ふ、點じやないかこ思ふ。それを逆に置換へるこ

「みんなこいつしよ」

こ云ふ、感じを養ふ。これが效果じやないかこ思ふ。何うも、他の保育項目では、これは餘り養はれないこ思ふ。お話なんかきいて居る時に「何うもいゝお話を伺ひました。一人できいて居るこ詰りませぬが、皆こ一緒にきいて居たから樂しい」こ言つて見る樣なものゝ、一人できいて居たつて、大勢できいて居たつて變りはないこ思ふ。別に興味が、話そのものに於て增しやしない。物を造つたりします時に、大勢で造つたつて一人で造つたつて變りはない。所が、遊戯こ云ふ事になりますこ、一人で踊つて居る時こ、大勢で踊つて居る時こ、意味が違つて來る。踊つて居る間に、多分子供は、踊る事自身、運動それ自身こは別な意味を、非常に味つて居るものこ思ふ。味はせ度いこ思ふのであります。

昨日も色々質問の中に、友達の中に這入らない人間、人こ一緒になれないこ云ふ變屈な人間が、皆こ一緒こ云ふ感じ、これは、プリミティブな人間の心持でありますが、斯う云ふ事を養ひ得るこ云ふ事が、一つの效果のねらひごころじやないかこ思ふ。

そこで、斯う云ふ風に擧げて來ました時に子供の事は論外こして、健全なるいきくしさ、こ云ふものが、效果のねらひごころであるこするならば、餘り難しい事は、この效果を擧げる所以でありませぬ。私共が、出來るだけ苦勞しなくてもいゝ、その自然の動きにまかせて置けばいゝ樣なこころに重きを置いて、態こ右の手を斯う(手振り)やつたら、ひこりでに動くのを、此方をこめて、二度やらなければならぬ、こ云ふ難しい約束を、出來るだけ少くしよう、こ云ふのは、ここを尊重したのであります。「あなたの踊るのを見て居るこ、自分をすつかり殺して居るね」こ云ふのは、藝術こしては面

白い。のびちやつたと云ふのは、藝術的の美はありませぬ。その、殺して了ふ所に面白味があり、多分其人もそこまで行けば、踊つた面白さがあるのでせうけれども、幼兒の場合に於ては、さう云ふのではなく、生き〳〵しさを味はせ度いから、成たけ自然な樂なまゝで、それでいゝんだ、と言ひ得る樣に遊戯を單純化したい、と云ふのが、こゝの問題であります。まづくていゝの惡いのゝ問題じやない。それが、無理な遊戯であるかないかと云ふ所に私は重點を置き度い。

それから此方を……斯う云ふ效果を尊重するとなりましたならば、皆と一緒と云ふ事になりましたならば、昨日お話の中で、情緒それ自身の效果を味はせる爲に、悲しいですねとか感心ですねとか云ふ觀念性を持つて來ちやいかぬと云ふ論法を、こゝに當はめ度い。折角皆が、皆と一緒の氣持で此處に居りますのを、觀念的要素に於て、斯う云ふ事を意識化して行く事は、そこの所が何うでせう。「皆揃ひませうね、揃ひませう」と云ふ、揃はなければいけませぬから揃ひませうね、揃はなくちやいけませぬと云ふ時に揃ふと云ふ事と、皆と一緒と云ふ感じは必ずしも一緒じやない。中には、少し列から離れて居つても一緒の樣な氣持で居る。それを、一緒々々、揃つて〳〵……と言ひますと、かへつてこれが壞れて來るかと思ふのであります。殊に、踊りの難しさに於て、揃つて來ると云ふ樣な事を八釜しく言ひ度いのでありますが、「實によく揃つて居るじやありませぬか」と云ふ時に私は、揃ふ事ばかり苦心して、皆と一緒に居る樂しさの中で踊る事の出來なくなる場合が多いじやないかと思ふ。中には、皆と一緒、と云ふ事で夢中になつて、踊る事は忘れて跳ねて居る子供があります。私は、あゝ云ふ樣なのこそいゝと思ふ。

まあ、前にも申上げました如く、曰く舞踊曰く劇曰く體操と云つた樣な問題は、效果のねらひどころを論じて行けば、こんな大ざつぱで濟む筈はないが、それをこはして、極く幼兒の生活に、くつゝけて行けば、こんな所で行き度いのであります。

遊んで居る時は……遊戯をさせて居る時は、一層、子供の今日の文化藝術としての遊戯の要求から離して、さうして極く原始的、單純簡單なる、こんな效果で許してやり度いものだと云ふ事を思ふのであります。而も斯う云ふ事は、實際に於てはなんとあまりに、逆になつて居るかと云ふ事も言ひ度いのであります。一寸休みまして。……(休憩)

(三) 製作—手技

殘つて居ります時間で、製作卽ち保育項目の言葉で言へば、手技、それと觀察の事に觸れなければならぬのでありますが、この二つは勿論別な事で、別々に效果のねらひどころをもつて居るのでありませうが、この二つに就て共通な事を先づ考へておきたいと思ひますのは、前に考へましたお話とか遊戯とか……まあ踊りとしませうか、云ふ樣なものと較べまして、この製作及び觀察は、これこそ純生活的性質をもつて居るものであります。お話は大人の世界に移せば或は文學となり、或は詩となり、一種の藝術的な性質を多分にもつて居るものであります。遊戯は更に申す迄もなく藝術的な性質をもつて居るものでありまして、其處に前に申しました遊戯と云ふものゝ保育項目として、幼稚園のものとして、の惱みが色々と出て來る譯でもあります。

この藝術的なるものに較べまして、物を作ることか、或は物を觀察と云ひますか、見ると云ふ樣な事はこれは藝術ではありませぬ。後で申さうと思ひますが、觀察の樣なものが間違つた取扱ひの方に發展して參りますと、科學となり、學問となると云ふ傾きはありますけれども、併し不斷、生活の中に於て生活その儘で行はれて行くものでありますから、其處でこの觀察と製作は保育項目の中で最も、純生活性の多いものと私は見度いのであります。我々が保育項目の中に敢へて優劣をつける譯ではありませぬ。何れが大事で何れが二の次である。或は又その效果に於て何れが多くて何れが少いと云ふ

敢へてその差別をつけようとするのではありませぬが、保育項目を目的の方から考へるのでなく、子供の生活の方に則して考へて行く意味から云ひますと、生活性の多い製作とか觀察とか云ふものが、生活性の少し離れて行く傾向の多い製作とか觀察よりも、よりよく保育項目としてその意味に於て利用……と云ふ言葉は當りませぬが……面目を發揮し得るものと考へるのであります。こつちが主でこつちが從であると云ふのでなく……幼兒生活に則すると云ふ意味から面目を發揮するのは、製作と觀察がより多く面目を發揮し得ると思ふと、斯う云ふのであります。その意味から私は保育項目の中で價値の上下ではなく、幼兒生活の中に行はれる領域、分量と言つてもいゝですが、保育項目の廣さの方から見ました時に、製作なり、觀察なりを、遊戯及びお話よりも何と云ひますか、矢ッ張、尊重するとでも云ひませうか、本源的なものゝ樣に考へるのであります。

幼稚園は子供の世界、大人の現實な暮しから見ますと、あどけない、美しい、可愛らしい、即ち藝術的な味はひの多い所だと見られて來て居る樣であります、大人が自分の生活から拔けて來て幼稚園を見ました時は「氣樂なもんだね」「樂しいものだね」「夢の世界だね」「藝術の世界だね」と斯う見るでありませう。その見方からは幼稚園のその面目、さう云つた意味の面目を發揮するものは、お話と遊戯かと、斯うなるのは無理もないと思ひます。從來幼稚園でお話、殊に遊戯が大層主體になつて居る風がありましたのは、さう云ふ所にもとがあるんではないかと思ふのであります。併しお互、幼稚園の中で子供の爲に住んで居りますものから見ますと、見物人でなく、子供の世界の中に、住はせて貰つて居ります、中から幼稚園を見ます私共の目にとりましては、幼稚園は外の大人に世界から見て、輕やかであり朗らかな美的なものであり藝術的なものであると云ふのとは違ひます。何と眞劍なものであり、實際、現實なものであるか、と云ふ事が、私共に考へられるんではないかと思ふ。幼兒は即ち偶然に踊り、偶然に文學に觸れて居るだけのものではありませぬで、彼處(あそこ)で實に

生活をして居る。勿論失業もありませぬ、色々と暮しの問題もありませぬ。浮世の面倒ないきさつも大人の樣にはありませぬでせうけれども、決して有閑世界ではありませぬ。所謂閑(ひま)でたゞ勝手に生活して居る世界ではないのであります。これは幼稚園の中に居りますものが幼稚園を外から見る人と、まるつきり違つた見方をもつ點であるかと思ふ。その子供が道德的に眞劍だ、と云ふ意味じやなくてこれも勿論大事な事ですが、道德的なんて云ふものでなく、事實、現實のリアリスティックな生活をして居ります。その生活の中に多くの部分を占めて居りますものが多分、製作と觀察であるかと考へるのであります。私共が幼稚園に於て製作と觀察に非常に力點を置きます點は、その意味であります。今日は一日幼兒にお話をしなかつたと云ふ日があつても幼稚園が減んだとも思ひませぬ。今日も、今日も、一年しないのでは文學のない世界の樣なもの足りなさがありますけれども、……或は毎日踊り暮さなくつたつて、幼稚園が貧しく、乏しくなるとも思ひませぬ。それ所じやない。毎日踊つて踊つて踊り拔いて居ると云ふ樣な浮かれ幼稚園と云ふ事になりますと私は子供が「樂しいね。藝術的に樂しいね。併し僕等の生活は何處でするんだらう」と斯う云ふ事もありやあしないかと思ふ位であります。

其處で觀察製作、これは幼稚園の主體と、私は言い度いのであります。その主體と叫びます、尊重します所以がもう一度、うるさく言ひますが、教導の目的論の方から云つて居るのじやありませぬが、子供の生活の中に、根據を今ももつて居ると云ふ意味で云ふのでありますから、從つて若しも幼稚園の製作なり、觀察なりがそんな子供の生活、それに則するものであるに拘らず、それだから尊重して居るに拘らず、實際は子供の生活から離れる傾向、方向になつて了つたらば、罪もつて更に甚しいと、斯う云ふ事になるのであります。まあこゝによつたら、幼稚園は先生が一人よがりでやつて居てそして子供が何だか斯う解つたやうな、解らぬ樣な、うつとりした樣に眺めて居つても、まあ〳〵元來が藝術ですから……お互が偉い人の文學を讀んで、「實に面白い」と云ひます時程、眉に唾をつけたい樣な人はないのでありまして、多分その

藝術家が一ぱいに感ずる、その半分も味はへないで「この小說は面白い」のなんの、と云つて居るのだと思ひます。皆樣がいゝお話をいゝ仕方でなさつた時に、子供がさう云ふ受取方をしても、あれが藝術だから許される。許したかないですがそりやあ、まあ許してもいゝ。遊戯の方は私、前の時間にあんなに、子供の生活に則してと希望しましたけれども、まあ藝術ですから、先生が手をとつて踊らせる。その踊が豆腐ダンスでも濟みますものと思ひますから、これはまあ、さうして子供の生活から離れても仕方がないとしませう。生活それ自體の中に則するが故に尊重されて居ります製作と觀察が子供の生活から餘りにも離れて行きましたらば、これはどうも私、「お話はね、先生がなさるから仕方がないし、遊戯も、根が藝術ですから仕方がないでせうが、私は私で製作の世界をもつて居るんだ、觀察の世界をもつて居るんだ。其處を通さして下さいませぬか」と子供が言やしないか、それで問題が充分に成立ち得る程のものをもつて居やしないかと、思ふのでありまして、斯う云ふ製作とか觀察とか云ふものを尊重する所以が子供の生活性に則して居るからでありますから、斯う云ふものを吾々が保育項目として研究する時に、子供の生活性に則せしめて行く、と云ふ事はより多くの責任を持つとも言ひ得るかと思ふのであります。

其處でその製作は、幼稚園でやつて居ります製作は美術工藝ではありませぬ。所謂子供が生活として作らうとする。作らうとするその氣持を滿して、其處から離れて行かないものでなければならぬ。この意味に於きまして何時も私申します如く、手技と云ふ字を嫌つて製作と云ふ字を使ふ。製作と云ふ字を使ふのは、手技と云ふ字が手先でやる小器用なものになりますから、製作と云ふ字を使つて見たのですが、製作と云ふ字を使つて見ると、えらく、大袈裟なものになり過ぎまして、何だか又そろ〳〵名前を換へなければならぬかと……小製作とかちび製作とか、しなければならぬかと、斯うも思つたりする。どうも、言葉を當嵌めて行く事は、誤解を完全に防ぐ事が無理でありますが……

その作らうとする、と云ふ所に、この本質があるとしますれば、問題は狂つて來ると思ふ。又もとに還つて言ひますがお話の時には子供の生活に耳を傾けて先づよききゝてとなつて、其處から話の世界を進展して行く、と云ふ樣な事を私は申しました。併しそれは話の世界を進展さして行く取扱ひ上の要領でありまして、話そのものは先生の方から語り聞かせられるのであります、子供に「昔々」と言はして「その昔ね」と別に言ふのでもないと思ふのであります。「昔々山の中に狸と狐が居まして、兩方で騙合ひをしようとしました。狸は斯う云つて騙しました。狐は斯う云つて騙しました……」……困つて居るので、先生は「何でもない。斯う作ればよい」と云つて先生が拵へる譯ではない。

取扱ひの要領は子供の中から進展さして行く。話は何處迄も先生自身に完成したものを與へる。遊戯も子供がこんな事をして居るのを見て(手振にて說明)それを斯う云ふ風にすれば、と先生は考案なさる。考案に於ては宜しいですが、この頃の遊戯の先生は皆んなさうだと思ふ。子供が何か遊んで居るのを見て、あの斯う手を振つて居る。斯う少し、斯うやれば美になる、完全な調和に段々なると云ふ所に、或は手をつけて、一つの何々と云ふ踊をお造りになつて、今度はこれを子供にもつて行つてお與へになる。そして「斯うやれやれ」……子供はこれが自分のものから出て居るのですけれども、先生によつて再生されて了つて……再び作られて……藝術品を與へられるのであります。

所が製作の場合に於きましては少うし、其處が違やしませぬでせうか。紙と鋏と糊を與へておきます時は、子供はその時その場に作り出すのであります。その時その場で作り出しました其處をつつかまへて誘導出來るものじやないでせうか。「さあ皆さん、斯う紙をお切りになつて、斯う切つて斯う……」斯うなるのが藝術だ、と云ふ行き方だけに限られるものじやないと思ふ。及川講師が皆さんに「花子さんの……何でしたかね……一生」じやない。何かを教へて居られる。そして豚は斯う云ふ風に斯うする、兎は斯う云ふ樣にする。豚の尻尾をお尻につけてはいけない、と云ふ樣な色々の作り方、

そして幾日かおやりになりますと、あのちやんとした立派なものが出來る。そしてあれを、まあお持ち歸りになりまして東京新仕入れ「花子の一生」……ですか……何ですか……と云つた樣な……そして、まあおやりになるでせう。まあそれも宜しいでせうが、子供が何も、あれを皆さんがお敎へにならないつたつて、材料と道具とあれば、或は材料と道具をさへ出しても、子供は何かやるんじやありませぬか。そのやつて居る所を摑へて、幼稚園の先生が、グループ的に子供の生活の中に保育をもつて行く。敎育をもつて行く樣にして、保育の眞諦、を發揮し得るものならば　……

充實指導

子供の、その詰り、子供が作らうとする、子供のその心を滿してやる。これが、私の所謂、充實指導で出來て來るもんじやないか、と思ひます。昨年、使ひました言葉でありますが、充實指導は遊戯の方では、充實指導、と云ふ事は出來ない。どうも、子供が頻りに斯う云ふ氣持を現はしたいが、と頻りにやつて居るもんだつたらば、其處へ行つて「それはね、斯うして三度振りやあ旨く行くのよ」とか何とかは充實を指導する、子供が充實出來ない生活を指導すると云ふ事があると思ひますが、それはないと思ひます。所が製作の方は子供が「何うしたら豚になるだらうかしら、私の豚は豚にならない」と斯う云つて居る時に「其處の所を一寸斯うすれば豚になる……」先生の顏を見て、首ッ玉に飛びついて「おゝ私の心を遂げしむる先生よ」と斯う嬉しくなるんじやないかと思ふ。斯う云ふ事が出來るんです。……製作では。

其處でこの製作は所謂その子供の生活の中から充實指導でもつてやつて行く要素を相當に多く用ひ度いものだと思ふ。用ひ得るものだと思ふのであります。充實指導、去年の話に申したのでありましたが、充實指導と云ふのは指導じやないんです。作り方の指導じやない。「あなた、下手だね」と云つて旨く作る指導法じやないんです。何うしたらこれが豚になるかしらん」と思つて居る時に一寸豚にしたいだけの子供の氣持をその充實を指導してやる事でありますが、敎へると云ふ

教導なんて事と違つて、これよりずつと前の話でありますが、充實指導をすればいゝと思ふ。若しも幼稚園の生活が所謂子供の生活を自然存分に發揮させる事が出來まして、さう云ふ環境條件にありまして、そして先生が充分に子供の生活を一つ〳〵見て行く事が出來まして、而して子供の今、求めて居るものを今、すぐ充實指導の出來る技倆が充分にありましたならば、私、實に生活の中から、手技…製作…を潤澤に、豐富に發展させて行く事が出來る性質をもつて居るものじやないか。子供が色々、ものを作らうとして、ひよつと見ると、こつちの子供が豚を作らうとして居りますから、「そりやあ、斯うすれば豚になる」。ちよつと見ると兎を作らうとして居る。「そりやあ、斯うすれば兎になる」。牛を作らうとして居る子供がある。「一寸吾輩は出來ぬ」と云ふので止めちまふのであつたならば「もうやめた」なんて事になりましたら、それは私…その先生…出來ませぬ。此處では兎と豚をお習ひになりましたけれども…兎と豚の出來る先生、と云ふ譯じやないでせう。

あれをお與へになるなら、あれだけ出來りやあ宜しうございませうけれども、あれだけ出來りやあ二學期は兎と豚でやめる。…農林省邊りから奬勵資金か何か出ませうが…

さう云ふ子供の製作の、何が出て來るか解らないのを指導して行くのは、色々な事があると思ふ。及川講師が豚と兎をお教へになりましたのは、あれが皆さんの中に發展して應用されて、牛となり猫となり、犬となり、何でもなる。そのもとをお示しになつたものだと思ふ。それが御心配で來年邊りは犬と猫との製作をなさるか何うか知りませぬが…それが百年もかゝれば動物がみんな終られる、と云ふか知れませぬが…兎に角さう云ふまあなんですね。子供の生活の中で充實指導の出來て行くものだと斯う思ふのであります。

所が此處にもう一つの問題がある。子供が自然やつて居りますものを、それを充實指導して行きますのが、一番生活に

則した問題なんですから何も紙製作ばかりじやありませぬよ。砂場で充實指導が充分出來る。砂場でやつて居るのはこれは製作の外である。あれはおいたである。それを指導すると、私の手が汚れる、なんて云ふのとは違ふのです。砂場で色色拵へて居て「困つちやうんだ。此處の所で……」其處へ先生が來て「そりやあ、砂ばかりでやらうとして居るからそんなに、困るのだから、一寸粘土を此處に持つて來たら何う」こんな事をやつて、まあ、何うだかやる。すると子供は大變に喜びませう。其處から段々發展して行きましたら、その方針で、その子供の爲に立派な一つの製作の……机の上と同じものに變つたつて構はないじやありませぬか。

こつちの方から言ひますならば、極めてこれは生活に則して行けるのでありますが、其處に問題がある。その問題と言ひますのは、子供が私が都合よく申した樣な工合に……私の話なんか都合よく運んで居るんですが……都合よく子供が皆んな製作を始めて呉れるか、何うか。製作は生活の間にあるものですけれども、どうも其處の所が……たゞたゞその儘に放つておきましたら……一寸この一瞬、作る方の事に觸れないで……さう云ふ事の好きな子供もありませうが、そんな事はしないで、喧嘩したり、ブランコに乘つたり、飛び廻つたりして居る子供もありませう。中には先程申した事を裏切つて裏の方に行つて、「チンツンシャン」と踊つてる者もあるでせう。頻りに雜誌ばかりひつくり返して、讀書すると云ふと可笑しいですが、畫を見乍らじつとお話を考へて居る樣な、心の中で味はつて居る樣な子供もあるかも知れませぬ。其處で子供の生活の中に出て來るものであるけれども矢ッ張こつちに向つて充實指導ばかりで行きませぬから、其處で他の手をとらなくちやなりませぬ。そのこつちの方はそれで濟みましたが、その他の手をとる。……

誘導案

こつちが製作をやゝ課して行く方である。その課して行くに就きましては、色んな問題が起つて來ると思ふ。實に先生

達の中には、正直な方がお在でになりまして、胸は凡て打割つて子供に語る。正直な先生がいらつしやいます。ごうも見て居るこ、皆んなは生活の中で製作を發展さして來ない。製作を發展さしてやらうこ思つて、花子の出て來るのを待つて居るが、ごうも斯う出て來ない。其處で「こつちから課さうこ存ずる」こ云ふ譯で、課すに就ては…お話を聽かして居る時はお話を選んでおきました。まあ子供の生活の中から發展させるにしても、何うしても…「先生何かお話をして頂戴な」こ云ふ時に自然に出る時の先生はお話をもつて居る。子供こ一緒に踊つて、子供の遊戯を導く時も、もつて居る遊戯をお示しになつた。其處でその論法で行けば、製作を課する場合にも「さあ、これから課しますよ」。

「今日課す製作は豚である」豚である…子供は目を丸くして居ります。文學ならばですね。突然、八犬傳が出て來ようが、弓張月が出て來ようが、ハムレットが出て來ようが、オムレットが出て來ようが、そりやあいゝ樣なものでありますけれごも、何が故にいきなり、豚を出して來たか、これに就ては私は元來が生活の中にあるものだけに、わざこらしければ、顯著になつて來るこ斯う思ふのであります。「先生何故、豚作るの？牛じやいけないの？ライオンじやいけないの？」こ斯うきかれた時に先生、大抵困つちまふこ思ふ。「いけなかないけれごも、先生講習で豚を習つて來たんだもの」こ云へば一層正直であります。中には動物を段々教へ…動物製作を段々教へて一年保育では動物が三十匹、二年保育では更に六十匹、こ云ふ樣な、丁度今頃が豚になつて、今頃が兎になつて、斯う云ふ、まあ、譯だ、こ云へばそれは先生のさう云ふ順序ですから、「この次はいづれ」「この次は、この次は…」斯う云ふお話もあるかも知れない。或は先生が「何も私はたゞそんな機械的な事を云つて居るのではない」「この前は鶴を教へましたつけね。二本足で立つのを教へた。今度は四本足…順序が逆樣ですけれごも…四本足でキリン、長あい、細おい足のキリンを教へよう。それに行く段階こして豚を作る。尤も、豚が出來なくつてキリンを作るなんて生意義だ。短い足で立てるものも出來ないで長い足で立てるものが出來るも

んか」と云ふ譯合ひであります。まあ、それで濟んでるんです。

所がどうも私は元來が生活の中にふるさと、ふるさと所じやない。今も生活の中に則す傾向を多分にもつて居る製作ですから、この課し方も生活的に課して行つたら何うかと思ふ。課するとなると、題目的に課したり、目的に課したりする遊戯やお話の場合と差別して課するのであるから、生活的課し方、その生活的課し方を私は、誘導と名づけ、或は誘導案によつてやつて行くと、昨年のお話とこれが結びついて來るのであります。それを作らせようとお考へになりましたならば、子供の生活が自らそれに行く樣に段々誘導してきやあ宜しいのです。立派な都合を作つておいて、ふと思ひ出して「豚も矢ッ張入れませう」、なんて事になると、子供は利口な子供だつたら、「それは皮を剝いてぶら下げる奴ですか」或は「カツレツにした奴ですか」なんてころもをかけた樣な事を言ふ。併も田舍の景色をずつと出しておく樣な誘導案があれば、豚が出易いコンディツションにある。何うしても出なかつたら、田舍の景色で誘導して、もう一きりで豚になる。昨日一日我慢したが出て來なかつた時は、その時は子供の後で「ブゥ〳〵」とか言つても構ひませぬ……(笑聲)

さう云ふ風に製作の問題を考へておきましてそしてその效果のねらひどころと云ふ事は、所謂作ると云ふか

一　作る

作ると云ふ氣持を二つにしまして、何で作つて行きますか、所謂材料から引出されて行きましたり、或はまあ何う云ふ譯か知りませぬが、何か子供にあるものが一つ出て來る。これは生活の中から出て來るのですから、作りたければ作つて宜しい。もう一つはこれからこれが出來て行く、と云ふ誘導されて子供が作つて行くのでありまして、この誘導の關係はこゝによりましたら、その生活系統の中で段々作つて行くのでありますから、これをプロゼクトと廣く名づけませう。及川先生の今回のあの「花子さんの……何でしたかな」「花子さんのお家」あの「花子さんのお家」と云ふあれは立派なプロゼク

ト主義でありますが、あの「花子さんのお家」の、私是非一つ及川先生にお習ひにならなければと思ふ事は、あのプロゼクト主義を何處から持ち出して行くか、と云ふ點であります。一度あれを持ち出したら、後はごん〳〵〳〵進んで行きます。プロゼクトで行く。若し「花子さんのお家」と云ふものをたゞ出し抜けに『何が何でも「花子さんのお家」を作りませう』「花子さんのお家」を作らなければ承知しませぬ』これは中央ヨーロッパに起りましたナチスの騒動の樣なもので實に、ピストルでも、向けなければ、と云ふ强引なものになります。何うしたら「花子さんのお家」と云ふものを子供の生活の中にずつと近づけてもつて來るか、と云ふ事に就ては、これは手技と云ふより保育の要領として大事な事であります。多分及川先生は手技の講師として御立ちになつたから、其處はお示しにならなかつたと思ひます。其處の所が及川講師の手技の先生じやなしに保育者としては實に色々な御苦心が實際にある所なんでありますが、これを御習ひになりたかつたならば、この幼稚園が開けて居ります時に實際を御覽下さいますれば「なーる程」、「なーんだ」なんてぢつちかゞ御解りになるかも知れませぬ。此處にその「花子さんのお家」と云ふものが先づ子供の生活の中に旨く課せられて行つて、其處の所は其處から手技の事を所謂、プロゼクトの、この題目としてお取扱ひになつて居る。其處から後はごん〳〵〳〵これが進んで行くので、先づまあ發展すれば「花子さんのお家」には豚が一匹兎が一匹、と決つたものでもありますまい。未だ色々とあれが發展して來ても宜しいでせう。今頃は夏お習ひになつたのですけれども、お持ち歸りになりましてやつて居る中に段々寒くなりましたら、又もそろ〳〵御心配になりますれば、或は火鉢の一つお入れにならなければならないが、何しろ習つた時は火鉢がないが、なんて仰有つて、わざ〳〵及川先生の所へ手紙をお出しになりまして「火鉢を入れましてもあの家は構ひませぬですか」なんて云つた事をおきゝになりましても、それは私だつてごん〳〵お返事する「お寒ければお入れなさい」それはまあ、ごん〳〵發展して行く。これは甚だ差し出がましい事でありますが、遊戯の講習なんかの時はそれを丸呑みにして

行つて、其の儘出す。後が繋がらん、なんて云つた樣なそれ程、忠實になさらないたつて、講師に對して失禮じやないと思ふ。まああゝ云ふ一つの形をお習ひになる。文部省は決して昭和九年度に於て日本中の幼稚園で豚と兎を作らせる事を示して居るのではありませぬ。詰りあゝ云ふたゞプロゼクトと云ふ事と同時にまあ手技の作り方の方の問題を大人の方々として御練習になる事は這入つて居りませう。私共、作ると云ふ事の生活ですから、餘り同じ事を申しますけれども、難しい要求をなさると、作るのが嫌になりますな。「つくゞ〳〵私作らない。幼稚園じや作らない。先生の居ない所で作る。家で作る。作る事は好きだけれども幼稚園では作らない。先生は作らせる人でなく、作つたものを、何のかんの、と作り度い氣持に迄邪魔をすると云ふものだ」と云ふ子供がありましたら、私その先生を抓つてやり度い。實に間違つて居るんだと思ふ。と言ひますと今度は逆に「何も言はぬから作りなさい。後も見ないから作れ」これも簡單です。餘りに放任です。子供の作りましたものをなんか摑へて充實指導しなければなるまいし、作れば見て頂き度いでせうし、見せれば先生は見せに來た子供の作り度い氣持を汲んで然るべき御挨拶もあるべき筈であります。さう云ふ關係で兎に角、何うしたら子供が多く作らなくなつちやふか作ると云ふ事に生活の所謂、喧しく云へば、創作性を養ふか、工夫性を養ふかであります。創作ですね。創作と云ふ事は作ると云ふ事の後に出て來た枝や根であるかも知れませぬが、「皆さん工夫して御覽なさい。〳〵」なんて云ふとあの可愛らしいでこ頭を振り立てゝ工夫するんだつたとすれば、實に難しいんです。實に難しい。「創作しろ」實に難しい。殊にプロゼクトになりますと、先生の考への中に於けるプロゼクトと云ふものは其處に必然的論理的關係がある。花子の家ですから斯う云ふ風になつて來る關係があるのですから、その關係を離れて、プロゼクトが生活を誘導して行くのでありますが、これは大事な點でありますから、御注意を願ひ度い。先生はそのプロゼクトの抽象的理路的關係で繋ぎをつけていらつしやいますが、子供も又その抽象的理路的關係で繋ぎをつけるんでは、製作と云ふ保育項目を利

用して居る所以でないのであります。ですからテーブルを作つて見たらば椅子がなくちやなりませぬ。けれども私達の考へでは「テーブルがあれば椅子がなくちやならぬ筈である」ある。あるこ、斯う云ふ抽象理路でつけて來た。子供がテーブルだけ作つて椅子を作つて居ませぬこ、先生は此處がプロゼクトを突込んで、「所でお考へになりまして、何か變ではありませぬか」「テーブルありて〇〇なし」なんて云ふ事を云ふ。私が子供だつたらちやんこ言ひますね。「椅子が欲しいけれども〇〇がないから買へないんだ」なんて言つちやいますが……

二　具體の方に

その抽象的な話で行くんじやない。これを作つておいて花子を何うしたらいゝ。子供が變だなんて思ひませう。花子を日本の子は平氣でテーブルの上に花子をおいたりしますが、西洋の子供だつたら驚くべき事ですが……花子を何うしようこ思つて、仕方がないから抱いて居りませう。さう云ふ事をやつて居る中に「何だか椅子がなくちやならぬ」「椅子テーブル」こ云ふ家具屋の目錄じやないですが、椅子を作らなければならぬ、こ云ふ理窟じやなくてたゞ具體的に、さう云ふ樣な考へじやないんです。考へれば「テーブルの傍に是非なくてはならぬものはなあに」なんて言へば「椅子」こ云ふ事になります。けれども製作こ云ふ實物、實際の具體を此處に用ひてやつて居ります時は、その多くは考へて見れば、理窟で繋つて居る事ですが、それが何處迄も具體に繋つて居る。その具體に繋つて居る所が私は製作によつて抽象化して行く心の働きを何處迄も具體の方に求めて行く。具體能力こ云ひますか、具體性こ云ひますか、その本來、子供のして居りました樣な特色でありますものをこの製作に進めて行く事が出來るこ思ふのであります。どうもお話なんかの場合には何こ云つてもこれは一種の表現性のものでありまして―シンボリックなものでありまして―きいて居るだけのものであります。或はこの遊戯の場合なんかも、踊の場合も、さう云ふ所謂表現本位のものでありますが、表現で宜しいですが、お話も表現で、

先生が表現して聽くが、遊戯も表現、併しこれは退けつちまへばなくなつて了ふ。例へば、花が咲いた、と云ふ、斯う云ふのを保育項目として、その花に飛んで行く蝶々、と云ふのを子供が表現する。これをやめたらなくなつて了ふ。斯うやつて居る取扱ひ、表現して居りますが、それをやめちやつても、「君の舞の姿を幻に見る」、なんてそんな幽靈の殘して行つた樣な形じやない。その人がやめれば止まる。所が製作は何うでせうか。表現と云ふプロゼクトの後にものが殘る、殘ると云ふ事は、作つた後に殘るのは、當り前と言へば當り前ですが、殘るのが結果として殘るのであると云ふよりも、その作つてる間に……先づ自分が花になつた氣で踊るならば、さう云ふ事が出來ませう。春の野に咲く花よ、蝶の飛ぶ交ふいたづらつ子が追つ掛ける。逃げて、とつて來た花を搖る。でさつさと一人で出來て來ます。花が蝶になつてもそれで濟んで行くのであります。その間は感情で繋つて行つて濟んで居るのです。此處のはものを作つて居るのですから、作つて居る中に、あの豚なら豚を御作りになる時に、豚を作るのに耳が何處にあるか、大して考へやしませぬです。そんな「先生、先刻から豚の耳が何處にあるか、考へて居る」そんな人は無いし、考へたら難しくなるか知れませぬ。豚の耳は何處にあるか難しい、一寸難しい。けれどもそれをお拵へになると、「何だか變だ。後につけたら尻尾になつて了ふ」と云ふのでそれが色々具體的に出來て來る。實に製作は具體的性質を多分に持つて居るものであります。

同じ表現ですけれども、

(四) 觀察(事實、實物に對する興味)

觀察の問題は、くだ〳〵しき論を要しませぬ。一言にして盡す、事實、實物に對する興味と云ふ、保育項目の效果のねらひどころであります。その興味と云ふものが、更に何う云ふ風に發展して行くか、これは發展しませうが、それが、興味と云ふ性質をのけてしまつたら觀察じやなくなる。斯う云ふ點を言つて置けば宜しいでせう……と云ふのは、たゞ淺は

かに、赤い花が咲いて居るよ、黄色い花が咲いて居るよ、と云ふだけが興味じやない。赤いのもあるね、黄色いのもあるね、違つて居るね、と云ふのは興味であります。或は、花瓣が、片方はこんなに澤山あるが片方は五つしかないよ、と云ふのは興味の一つであります。この中にこんなのがあるよ、此方にはないよ、それも興味でありませう。ですから興味と云ふものが段々進んで行けば精密なる智識の樣なものになつて行くでせう。よく、何所迄觀察さしていゝんでせうか、と云ふ事をお尋ねになる。さうして、誰かそれをちやんと書いてくれたらいゝ。幼稚園の方は「書いて置いてくれ〳〵」と仰言る。斯う云ふ工合で、觀察に就ても、或は梅の花を何所まで觀察させる、と云ふ樣な事を大變問題にしていらつしやるが、私は、何所迄行つたつていゝと思ふ。別に、深さが限定されて居るものじやない。然し問題は、その興味と云ふものが、全然自身の興味で進んで行つて、子供の興味の埒外に出て了つては、完全じやない。或は、子供自身の興味に則して居る領域でありましても、それを餘り靜止して、一つのこゝのつたシステマティックな興味にして了ふと、もとは一つ〳〵の興味であつたかも知れませぬが野原を……植物園をずうつと歩きまして、子供が「あゝ」と言つてやつて居る。家に歸つて來て先生が「今日は植物園に行きまして、世の中には色々の花がある事がお分りでしたらう。これ、本日の觀察の最後の結論なり」と仰言る。けれども私は、要するに色々な花があつた、と云ふ時に「要するに色々な花、ありやしないよ。黄色いのがあつたよ、赤いのがあつたよ、彼處にあつたよ」。と云ふ樣な事を眼に浮べて言つて居る時が觀察で、今日は植物園に行つたこれまた廣き世の中なり。と云ふ樣な事ばかりおし廣めたら……何所がいけないか、難しいか、と云ふのではなく、子供の興味から離れて行くその興味は、此方の場合に於きましては、具體、と云ふ事を言ひましたが、此方では物に則してる……何所迄も、物に則してる興味であります。物に則してなくちや興味ぢやありませぬ。

大人の場合に於て、興味と云ふのは、色々の種類がありませう。けれどもこゝでは、物に則したる興味であります。或

はこれは、則する、と云ふ言葉を言つた方が徹底するかも知れませぬ。まあ觀察の事はこの位で止めて置きます。

そこで、保育項目の實際と云ふ題目のもとに私の申しましたお話は、先づ終る事に致しますが、何うか一つ、甚だ失禮な事でありますが、私の話を――何と言ひませうか――きゝ間違へない樣にして頂き度いと思ひます。皆さんがお間違へになる筈もないし、お間違へになる程大した話をした譯ではないが、これは餘り失禮な事ですが、一つの話をします時には、……殊に斯う云ふ風な研究的な話をします時には、所謂、斯う云ふ方面を斯う云ふ眼で見ると云ふコンディッションのもとに話して居るのであります。保育、と云ふ事を、始終繰返してお呪ひの樣に唱へて居るのではない。色々な人が、保育には色々な苦勞をなさいますが、何の方面から何う云ふ趣旨で、その問題を見て居るか、と云ふ事を、自分でもはつきりしない言ひ方をして居りますと、自分でもごちや〳〵になるし、他人もごちや〳〵になります。そこで私は、今回は保育項目と云ふ問題を拔き出しまして、幼稚園保育論全體を申上げたのではありませぬ。保育法の事を申上げたのではありませぬ。保育方法の全體に就ては、昨年申上げました。今回はそこには觸れて居りませぬ。保育項目、と云ふものを拔き出して、而も保育項目の……勿論保育項目は、目的を持つて大人が選んで居るものでありますが、其方は申す迄もない。忘れたんではない。申さぬだけである。

今回申したのは、保育項目を、子供の生活の方に則しての、その事を申しました。これは昨年、保育方法を子供の生活の方に則して考へましたから、それらの中へ、保育項目を同じ見地に置いて見て考へたのであります。その意味で申上げました問題として、御諒解を得て置き度いと思ふのであります。

（文責在編輯部）